

平成26年度  
福井市教育委員会事務の管理および執行の状況の  
点検・評価報告書

平成27年10月

福井市教育委員会

## 目 次

1	はじめに	1
2	点検・評価方法等	2
3	平成 26 年度 福井市教育委員会の活動状況	
	(1) 福井市教育委員会委員	3
	(2) 教育委員会会議の開催状況	3
	(3) 教育委員の活動状況	6
	(4) 審議会等審議状況	9
4	平成 26 年度 教育に関する事務の管理及び執行状況	12
5	外部の知見	56

## 1 はじめに

本報告書「平成 26 年度福井市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書」（以下、「点検・評価報告書」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、より効果的な教育行政の推進と市民に対する説明責任を果たすため、市教育委員会が平成 26 年度の福井市教育振興基本計画の成果報告とともに、教育委員会の各種活動状況について点検・評価を行い、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

### 【参考】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 点検・評価方法等

対象期間

平成 26 年度（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）

点検・評価方法

(1) 点検・評価報告書の作成

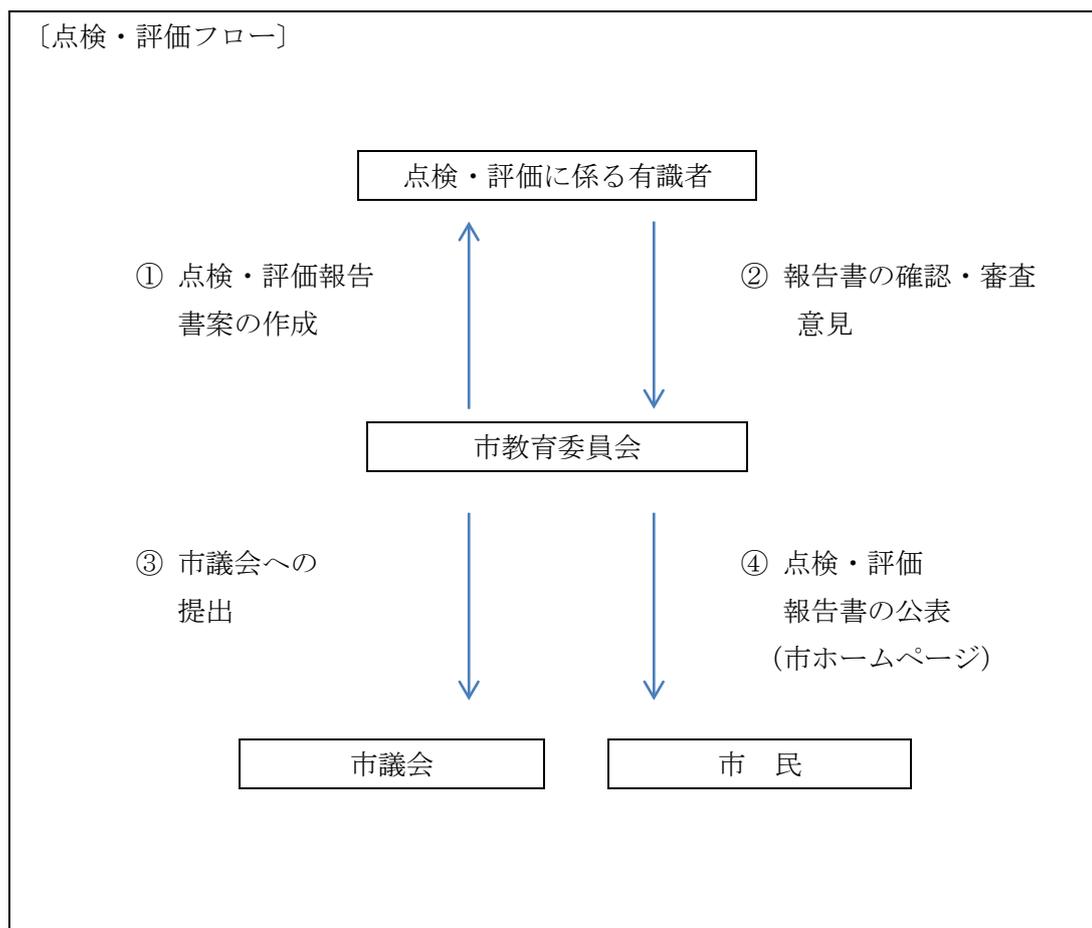
・教育委員会において点検・評価報告書案を作成

(2) 点検・評価報告書の確認、審査

・有識者による点検・評価報告書案の内容の確認及び審査

(3) 点検・評価結果の公表

・点検・評価報告書を市議会に提出するとともに、市のホームページにおいて公表



### 3 平成 26 年度 福井市教育委員会の活動状況

#### (1) 福井市教育委員会委員（平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日）

職名	氏名	職業等
委員長	玉 木 誠	会社社長
委員長職務代理者	石 原 義 紀	医師
委員	大 月 啓 子	主婦
委員	佐 藤 藤 枝	元公民館主事
委員（教育長）	内 田 高 義	（教育長）

#### 福井市教育委員会委員（平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

職名	氏名	職業等
委員長	玉 木 誠	会社社長
委員長職務代理者	石 原 義 紀	医師
委員	佐 藤 藤 枝	元公民館主事
委員	木 村 敦 子	主婦
委員（教育長）	内 田 高 義	（教育長）

#### (2) 教育委員会会議の開催状況

開催回数 12 回（定例会議）

付議件数 49 件

##### ○4 月定例教育委員会〔平成 26 年 4 月 9 日（水）〕

- ・平成 26 年度 4 月 福井市教育委員会事務局職員の異動について
- ・福井市教育委員会事務局に勤務する教職員について

##### ○5 月定例教育委員会〔平成 26 年 5 月 27 日（火）〕

- ・市議会定例会提出議案（明道中学校校舎改築工事請負契約の変更）に同意することについて
- ・福井市文化財保護委員の委嘱について
- ・市議会定例会提出議案（製造請負契約の締結）に同意することについて
- ・福井市教育委員会行政組織規則の一部改正について
- ・福井市教育委員会職務権限規程の一部改正について
- ・福井市教育委員会文書管理規定の一部改正について
- ・福井市教育委員会労働安全衛生委員会設置規程の一部改正について

○6月定例教育委員会〔平成26年6月26日（木）〕

- ・福井市学校給食運営委員会委員の委嘱について
- ・福井市社会教育委員の委嘱について
- ・福井市少年愛護センター運営委員会委員の委嘱について
- ・福井市立幼稚園入園料及び保育料の徴収に関する規則の一部改正について

○7月定例教育委員会〔平成26年7月24日（木）〕

- ・市議会定例会提出議案（放課後児童健全育成事業の整備及び運営に関する基準を定める条例の制定）に同意することについて
- ・福井市スポーツ推進計画について
- ・平成27年度～30年度使用小学校教科用図書採択について
- ・全国学力・学習状況調査の結果の取扱いについて
- ・福井市少年自然の家運営協議会委員の委嘱について
- ・福井市図書館協議会委員の委嘱について

○8月定例教育委員会〔平成26年8月25日（月）〕

- ・市議会定例会提出議案（平成26年度福井市一般会計補正予算 民生費予算（案））に同意することについて
- ・市議会定例会提出議案（工事請負契約の締結）に同意することについて
- ・市議会定例会提出議案（福井市体育施設条例の一部改正）に同意することについて
- ・市議会定例会提出議案（中央公園野外ステージ施設使用条例の廃止）に同意することについて
- ・市議会定例会提出議案（福井市自然史博物館の設置及び管理に関する条例の一部改正）に同意することについて
- ・福井市自然史博物館協議会委員の委嘱について

○9月定例教育委員会〔平成26年9月25日（木）〕

- ・福井市体育施設の管理運営に関する規則の一部改正について
- ・福井市学校不適応対策事業推進会議規則の一部改正について
- ・福井市スポーツ推進審議会委員の委嘱について

○10月定例教育委員会〔平成26年10月24日（金）〕

- ・福井市自然史博物館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について

○11月定例教育委員会〔平成26年11月19日（水）〕

- ・市議会定例会提出議案（福井市体育施設管理者の指定）に同意することについて

て

- ・市議会定例会提出議案（平成 26 年度福井市一般会計補正予算）に同意することについて

○12 月定例教育委員会〔平成 26 年 12 月 25 日（木）〕

- ・委員長の選挙について
- ・委員長職務代理者の指定について
- ・平成 27 年度の学年始休業日及び夏季休業日の特例措置について
- ・名勝養浩館庭園保存管理計画策定委員の委嘱について

○1 月定例教育委員会〔平成 27 年 1 月 28 日（水）〕

- ・市議会定例会提出議案（福井市教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例の制定）に同意することについて
- ・市議会定例会提出議案（福井市学校寄宿舎設置条例の一部改正）に同意することについて
- ・公立幼保連携型認定こども園の開設について

○2 月定例教育委員会〔平成 27 年 2 月 17 日（火）〕

- ・市議会定例会提出議案（平成 26 年度福井市一般会計補正予算）について
- ・市議会定例会提出議案（平成 27 年度福井市一般会計予算）について
- ・市指定の文化財の指定について

○3 月定例教育委員会〔平成 27 年 3 月 23 日（月）〕

- ・平成 27 年度福井市社会教育方針について
- ・福井市放課後子ども総合プラン〔実施計画〕について
- ・社会教育指導員の委嘱について
- ・専従補導員及び専従カウンセラーの委嘱について
- ・福井市体育施設の管理運営に関する規則の一部改正について
- ・養浩館庭園造園技師の委嘱について
- ・自然史博物館館長の委嘱について
- ・郷土歴史博物館名誉館長の委嘱について
- ・福井市郷土歴史博物館運営協議会委員の委嘱について
- ・自然史博物館分館の指定管理者の指定及び平成 27 年度一般会計予算の承認を求めることについて

### (3) 教育委員の活動状況

時期	活動内容（参加行事等）	委員名
平成 26 年 4 月 1 日	教育委員会辞令交付式 社会教育委員指導員委嘱状交付式	内田
4 月 3 日	新採用校長・教頭挨拶式 新任教職員着任式	玉木、石原、大月、佐藤、内田
	公民館主事委嘱状交付式	内田
4 月 8 日	福井県都市教育長協議会総会	内田
4 月 9 日	4 月定例教育委員会	玉木、石原、大月、佐藤、内田
4 月 10 日	全国都市教育長協議会 第 1 回常任理事会・理事会	内田
4 月 11 日	橋本左内先生生誕祭	玉木、内田
4 月 13 日	上文殊公民館落成祝賀会	内田
4 月 17 日	東海北陸都市教育長協議会役員会 第 1 回常任理事会・理事会	内田
4 月 18 日	東海北陸都市教育長協議会 定期総会並びに研究大会	内田
4 月 19 日	福井地区中体連春季強化大会	内田
4 月 21 日	市町教育長会議/へき地複式学級会議	内田
4 月 23 日	福井市公民館連絡協議会総会	内田
	平成 25 年度末退職教職員感謝状 贈呈式	玉木、石原、大月、佐藤、内田
4 月 25 日	不死鳥のねがい推進協議会 常任委員会	内田
4 月 25～30 日	新任校長訪問	内田
4 月 26 日	上文殊公民館オープンフェスティバル	内田
5 月 8 日	福井県教育委員会連絡協議会役員会・総 会・研修会（勝山市）	玉木、内田
5 月 10 日	福井市スポーツ少年団結団式 青少年育成福井市民会議総会	内田
5 月 17 日	福井市 P T A 連合会総会 ライオンズクラブ地区年次大会	内田
5 月 20 日	青少年育成福井市民会議との意見交換会	内田
5 月 21 日	全国都市教育長協議会 第 2 回常任理事会・理事会	内田
5 月 22～23 日	全国都市教育長協議会 第 66 回定期総会並びに研究大会	内田
5 月 24 日	福井市公民館運営審議会連絡会総会	内田
5 月 25 日	「第 27 回市美展ふくい」表彰式	内田
5 月 27 日	5 月定例教育委員会	玉木、石原、大月、佐藤、内田
5 月 29 日	円山公民館増改築工事安全祈願祭	玉木、内田
5 月 30 日	不死鳥のねがい推進協議会 総会・研修会	内田
5 月 31 日	「岩合光昭写真展」開場式	内田
6 月 3 日	養浩館庭園累計入園者数 80 万人記念品 贈呈式	内田

6月12日	第62回福井市中学校連合音楽会	玉木、大月、佐藤
6月13日	第62回福井市中学校連合音楽会	玉木、石原、佐藤
6月14日	第65回市民体育大会総合開会式	内田
6月17日	学校訪問（東郷小）	玉木
6月18日	学校訪問（明新小）	玉木、石原
6月19日	学校訪問（東藤島小）	佐藤
6月24日	学校訪問（木田小）	佐藤
	学校訪問（至民中）	玉木、佐藤
6月26日	第56回福井市小学校連合音楽会	石原、佐藤
	6月定例教育委員会	玉木、石原、大月、佐藤、内田
6月27日	第56回福井市小学校連合音楽会	石原、大月、佐藤
	学校訪問（藤島中）	玉木
6月28日	不死鳥のねがい制定50周年記念大会	内田
7月3日	全国都市教育長協議会	内田
	第3回常任理事会・理事会	
7月5日	青少年環境浄化一斉点検出発式	内田
7月8日	第1回社会教育委員の会議	内田
7月11日	福井地区中体連夏季総合競技大会激励会	内田
7月17日	全国高等学校総合体育大会出場者激励会	内田
7月19日	「北斎展」開場式	内田
7月23日	小学生全国大会出場者激励	内田
7月24日	7月定例教育委員会 市内文教施設視察	玉木、石原、大月、佐藤、内田
7月29日	福井県都市教育長協議会研修会	内田
7月31日	第55回全国栄養教諭・学校栄養職員 研究大会	内田
8月5日	福井県女性校長・教頭会学校運営研究会	内田
8月14日	全国中学校体育大会出場者激励会	内田
8月19日	東海北陸公立中学校英語教育研究会福井 大会	内田
8月21日	福井県都市教育長協議会第2回研修会	内田
8月22日	全国高等学校PTA連合会大会福井大 会	内田
	友好都市結城市こども親善大使歓迎式	
8月25日	8月定例教育委員会	玉木、石原、大月、佐藤、内田
8月28日	福井市青少年問題協議会	内田
8月29日	第73回国民体育大会福井市準備委員会 常任委員会	玉木、内田
	第73回国民体育大会福井市準備委員会 第2回総会	玉木、石原、大月、佐藤、内田
9月13日	「クレバス画名作展」開場式	内田
9月18日	福井市小学校連合体育大会	玉木、大月

9月25日	9月定例教育委員会	玉木、石原、大月、佐藤、内田
	福井市文化奨励賞選考委員会	玉木、石原、大月、佐藤、内田
10月4日	東海北陸地区子ども会育成研究協議会 【福井大会】 開会式	内田
10月7日	橋本左内先生墓前祭	玉木、内田
10月9日	東海北陸公民館大会【福井大会】	玉木、石原、佐藤、木村、内田
10月22日	教育ウィーク視察（足羽第一中、上文殊小）	佐藤
10月23日	教育長と語る会（福井市子ども会育成連合会）	内田
10月24日	10月定例教育委員会	玉木、石原、佐藤、木村、内田
10月25日	「家族ふれあい絵手紙コンクール」優秀作品表彰式	内田
10月27日	福井市社会教育功労者表彰式	玉木、石原、佐藤、木村、内田
10月28日	教育ウィーク視察（至民中）	佐藤
10月29日	教育ウィーク視察（藤島中）	玉木
10月30日	教育ウィーク視察（社中）	佐藤
	教育ウィーク視察（日之出小）	木村
11月2日	ふくいスカウト大会 2014	内田
11月3日	福井市文化奨励賞授与式	玉木、石原、佐藤、木村、内田
11月4日	福井市公民館連絡協議会市長と語る会	内田
11月5日	教育ウィーク視察（明新小）	玉木
11月6日	全国都市教育長協議会 第4回 常任理事会・理事会	内田
11月8日	青少年育成福井市民会議創立 30 周年記念大会	玉木、石原、佐藤、木村、内田
11月10～11日	教育委員行政視察（徳島市、香川県）	玉木、佐藤、内田
11月12～13日	東海北陸都市教育長協議会役員会 第2回役員会	内田
11月13日	教育ウィーク視察（本郷小）	佐藤
	教育ウィーク視察（清水中）	玉木
	教育ウィーク視察（円山小）	木村
11月15日	市PTA連合会市長・教育長と語る会 福井市PTA研究大会	内田
	教育ウィーク視察（大東中）	木村
	教育ウィーク視察（東藤島小）	木村
11月19日	11月定例教育委員会	玉木、石原、佐藤、木村、内田
11月20日	教育ウィーク視察（棗幼小中）	木村
11月21日	第2回社会教育委員の会議	内田
11月25日	全国市町村教育委員会研究協議会	内田
12月25日	12月定例教育委員会	玉木、石原、佐藤、木村、内田
平成27年 1月9日	福井市・熊本市姉妹都市青少年交流事業 歓迎式	内田

1月10日	三世代事始め	内田
	あすの福井県を創る協会事始めの会	内田
	「第16回福井市・吉田郡中学校美術科作品 かんじて・み・よさ展」開場式	内田
1月11日	成人式	玉木、石原、佐藤、木村、内田
1月12日	福井市連合婦人会事始め	内田
1月13日	第20回福井県市町教育長研修会	内田
1月17日	円山公民館竣工記念式典	玉木、内田
1月28日	1月定例教育委員会	玉木、石原、佐藤、木村、内田
2月7日	あすの福井県を創る協会 ふるさと料理を楽しむ会	内田
2月17日	明道中学校内覧会 2月定例教育委員会	玉木、石原、佐藤、木村、内田
2月21日	「奇才・ダリ版画展」開場式	内田
2月23日	第3回社会教育委員の会議	内田
3月4日	清水東・美山公民館館長委嘱状交付式	内田
3月5日	不死鳥のねがい推進協議会常任委員会	内田
3月12日	小中学校卒業式	玉木、石原、佐藤、木村、内田
3月13日	小学校卒業式	玉木、石原、佐藤、内田
3月14日	明道中学校竣工式	玉木、石原、佐藤、木村、内田
3月20日	文殊幼稚園卒園式	玉木
3月23日	3月定例教育委員会	玉木、石原、佐藤、木村、内田
3月31日	教育委員会辞令交付式	内田

#### (4) 審議会等審議状況

審議会の名称	委員数	会議開催数	件名	種別	年月日
学校不適応対策事業推進会議	12	3	・福井市適応指導教室「チャレンジ教室」の活動全般に対する支援について	審議	26.9.26 26.12.26 27.2.26
福井市教育支援委員会	30	7	・特別支援学級及び県立特別支援学校就学該当者の判断について	審議	26.4.17 26.5.15 26.7.2 26.7.17 26.7.29 26.9.17 27.2.19
福井市学校給食運営委員会	14	2	・学校給食の現状について ・学校給食費改定について ・単独調理校調理業務委託について	審議	26.5.8
			・中藤小学校調理業務委託の募集要項について	審議	26.9.26

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・選定委員会の設置要綱について</li> <li>・給食費改定後の献立について</li> </ul>	報告	
福井市結核対策委員会	7	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 25 年度結核健診実施状況</li> <li>・平成 26 年度実施の結核健診における要検討者について</li> </ul>	審議	26. 6. 25
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 26 年度小中学校における結核健診の実施状況について</li> <li>・結核健診における問診表様式の検討について</li> </ul>	審議	26. 12. 17
福井市少年愛護センター運営委員会	15	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井市少年愛護センターの事業概要について</li> </ul>	審議	26. 7. 23
福井市少年自然の家運営協議会	8	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井市少年自然の家の事業概要について</li> </ul>	審議	26. 8. 27
福井市青少年問題協議会	12	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の教育力の向上について</li> </ul>	審議	26. 8. 28
福井市スポーツ推進審議会	14	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井市スポーツ推進計画について</li> </ul>	審議	26. 7. 16
第 73 回国民体育大会準備委員会第 2 回常任委員会	64	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 25 年度事業報告</li> <li>・平成 25 年度収支決算</li> <li>・第 73 回国民体育大会福井市広報基本計画</li> <li>・第 73 回国民体育大会福井市競技運営基本計画</li> <li>・第 73 回国民体育大会福井市施設整備基本計画</li> <li>・第 73 回国民体育大会福井市宿泊基本計画</li> <li>・第 73 回国民体育大会福井市医事衛生基本計画</li> <li>・第 73 回国民体育大会福井市輸送交通基本計画</li> <li>・第 73 回国民体育大会福井市消防防災・警備業務基本計画</li> </ul>	審議	26. 8. 29
第 73 回国民体育大会福井市準備委員会第 2 回総会	173	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 2 回総会</li> <li>・平成 25 年度事業報告</li> <li>・平成 25 年度収支決算</li> <li>・平成 26 年度事業計画</li> <li>・平成 26 年度収支予算</li> </ul>	審議	26. 8. 29
福井市文化財保護委員会	10	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の市指定について</li> <li>・指定文化財に係る事業について</li> </ul>	審議・諮問 協議・答申	26. 7. 11 27. 2. 9
福井市文化奨励賞選考委員会	10	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井市文化奨励賞受賞者の選考について</li> </ul>	選考	26. 9. 25
福井市自然史博物館運営協議会	10	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 1 回</li> <li>・平成 25 年度自然史博物館事業実施結果について</li> <li>・平成 26 年度自然史博物館事業計画</li> </ul>	協議	26. 7. 31

			<p>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福井市自然史博物館分館整備について</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然史博物館分館展示物等の基本設計について</li> <li>福井市自然史博物館の設置及び管理に関する条例の一部改正について</li> <li>自然史博物館分館の運営について</li> </ul> <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度事業計画について</li> <li>ボランティア活動要綱等の整理について</li> <li>自然史博物館分館の整備について</li> </ul>	協議	26.10.16
				協議	27.3.21
福井市美術館運営協議会	8	2	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度前期(4月～9月)事業報告について</li> <li>平成26年度後期(10月～3月)事業予定について</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度後期(10月～3月)事業報告について</li> <li>平成27年度年間事業計画(案)について</li> </ul>	協議	26.10.9
				協議	27.3.14
福井市立郷土歴史博物館運営協議会	8	2	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度寄贈・寄託資料について</li> <li>平成26年度上半期の事業について</li> <li>秋季特別展「徳川将軍家の名宝」について</li> <li>その他</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度下半期の事業について</li> <li>その他</li> </ul>	審議	26.11.12
				審議	27.3.6
福井市図書館協議会	9	2	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館の利用状況について</li> <li>図書館の行事について</li> <li>福井市図書館利用者アンケートについて</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館の利用状況について</li> <li>図書館の行事について</li> <li>新年度予算について</li> <li>福井市図書館の活用推進について</li> <li>福井市雑誌スポンサー制度について</li> </ul>	協議・報告	26.8.22
					27.3.18

## 4 平成 26 年度 教育に関する事務の管理及び執行状況

本市では、毎年度当初に、責任ある立場の部局長等が、市長との政策協議を経て、1 年間の仕事の目標や課題への対応方針を明らかにした部局マネジメント方針を策定しており、また、その進行管理については各部局で行い、年度の終了後にその達成度を成果報告として公表しています。

ここでは、教育に関する事務の管理及び執行状況として、教育委員会にかかる部局マネジメント方針の成果報告を掲載します。

注：福井市では第六次福井市総合計画に基づき、毎年度ごとに部局マネジメント方針を策定し、その進行管理を行うものとしており、第六次福井市総合計画を基本として策定した福井市教育振興基本計画の進行管理も兼ねております。

### 教育委員会 成果報告

教育長 内田 高 義

教育部長 森 川 亮 一

#### 達成度

			
—	26	1	14

「快晴」は、指標を達成したもののうち、特に成果があがったもの。

「晴れ」は、期限内に指標を達成したもの。

「くもり」は、行動目標をおおむね達成したもの。

「雨」は、今年度達成できなかったもの。

#### 総括

学校教育では、子どもたち一人ひとりが「生きる力」を身につけるため、学校、家庭、地域の連携を深めながら、充実した教育に努めました。また、通学路の安全対策を推進し、地域全体で子どもたちの健全育成を進めました。さらに、放課後留守家庭児童の健全育成と保護者の就労を支援するため、放課後児童クラブの新設・拡充を行いました。学校施設の整備では、明道中学校の校舎改築工事を完了し供用を開始しました。

社会教育では、生涯学習やコミュニティ活動の拠点施設として、公民館の計画的な整備を進め、市民の自主的な学習活動を支援しました。生涯スポーツでは、福井市スポーツ推進計画を策定し、体育施設の建設や改修に取り組みました。また、平成 30 年の福井国体・全国障害者スポーツ大会の開催に向けて、基本計画を策定し広報啓発活動を進めています。

文化振興では、日本の伝統芸能に親しむ機会を創出し、特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡や名勝養浩館庭園の適切な管理と活用に努めました。また、平成 28 年の開館をめざす自然史博物館分館の開設準備を進めました。

## **組織目標ごとの達成状況**

### **I. いじめや暴力行為等をなくし、子どもたちが生き生きと学校生活を送るための充実した学校教育を行います**

子どもたち一人ひとりが「生きる力」をバランスよく身につけるため、学校、家庭、地域の連携を深めながら、充実した質の高い学校教育に努めてきた結果、目標通りの成果が得られました。各学校では教育活動を地域に公開し、家庭や地域と一体となって子どもたちの教育について考え行動する気運が高まりました。児童生徒に応じたきめ細かな指導を通して「確かな学力」の育成を図るとともに、体験活動を通して豊かな心を育むことができました。また、小中学校の特別支援教育コーディネーターの活動推進に取り組み、いきいきサポーターの配置などによって特別支援教育の強化を図りました。さらに、ALTやFCA（福井市国際文化交流大使）の派遣により、小学校の外国語活動の充実を図り、中学生は英語サマーキャンプの開催などによって学習意識を高めました。

### **II. 学校における安全対策の充実に努め、食育を推進し運動部活動の活性化を図り、心身の健全な発達に努めます**

全小中学校において、災害などを想定した危機管理の徹底に加え、通学路の安全対策や安全教育を推進することにより、児童生徒の安全を守るために備えることができました。また、児童生徒に安全・安心で楽しくおいしい学校給食の提供に努めるとともに、栄養教諭及び学校栄養職員を中心として年間計画に基づいた食育指導を全小中学校で実施し、食に対する関心と理解を高めることができました。運動部活動については、内容や方法を充実させて指導に取り組むとともに、高度な指導力をもつ指導者の活用により、生徒の意欲や意識の向上を図ることができました。さらに、学校保健委員会の開催や健康診断、健康教育を実施することにより、児童生徒の健康保持増進に努めることができました。

### **III. 家庭や地域、関係機関・団体と連携し、青少年の健全育成を進めます**

地域全体で子どもたちの安全確保と健全育成に努めるとともに、家族のふれあいと明るい家庭づくりの推進を図り家庭の教育力向上に努めました。さらに、地域での活動や自然を生かした体験学習を通して、子どもたちの社会性や自立性、また豊かな感性を育むことができました。将来に向けた望ましい勤労観や職業観を児童生徒に身につけさせるため、小学校では職場見学、中学校では企業関係団体と連携した職場体験を実施し、働くことの大切さや苦勞を学ばせることができました。また、放課後留守家庭児童の健全育成と保護者の就労を支援するため、放課後児童クラブの新設・拡充を行いました。

### **IV. 学校施設の耐震化や老朽化した施設の整備・改修など、環境整備に取り組みます**

児童・生徒が安全に安心して学べるよう取り組んでいる学校施設の耐震化は、小学校2校で着手時期の遅れにより繰り越すことになりましたが、その他の小中学校では計画通り実施しました。来年度は、繰り越し分も含め、全ての小中学校の耐震化を完了します。また、児童・生徒が安心して生活できるよう整備している学校生活環境については、明道中学校の校舎改築工事が完了し、新年度に供用を開始します。さらに、校庭整備、プール改築、トイレ改修及び体育館バリアフリー化を目標通り実施しました。引き続き、計画的に学校施設の整備を進めていきます。

## V. 市民一人ひとりの自主的な学習の活動を支援し、市民憲章運動を進めます

地域の生涯学習やコミュニティ活動の拠点である公民館を、当初の計画通り整備することができました。

公民館事業については、教育事業の充実や各種団体活動の支援に努めた結果、利用者数は全体的に増加しましたが、円山公民館の改修工事の影響で利用者数が減少したため、目標を達成することはできませんでした。

また、福井学や環境学習、世代間交流事業の推進においては、概ね目標を達成することができました。今後も、魅力ある学習機会の提供に努めていきます。

さらに、市民憲章運動では、憲章の意義を再確認し、まちづくりにその精神を活かすため、制定 50 年を記念した様々な事業を多くの市民の参加・協力を得て取り組みました。

## VI. 生涯スポーツを推進し、市民の豊かなスポーツライフを支援します

### また、平成 30 年の福井国体・全国障害者スポーツ大会の開催に向けた取組を進めます

市民が安全にスポーツを楽しむことのできる環境整備として、旧中藤小学校体育館やわかばテニスコートなどの体育施設を計画的に改修しました。

また、平成 26 年度から 27 年度の計画で、弓道場及び市体育館サブアリーナの建設を進めています。さらに、玄関のスロープ改修や自動ドア化など、体育施設のバリアフリー化に取り組まれました。施設利用者数は、前年度と比較すると増加しましたが、三秀プールの閉場や体育館の耐震化工事などにより目標を達成することはできませんでした。

国体の開催準備では、国体準備委員会専門委員会での検討を踏まえ各種の基本計画を策定したほか、国体競技会場となる市有施設のバリアフリー計画を作成しました。また、機運醸成を図るため、PRグッズやのぼり旗・懸垂幕等の啓発物を作製したほか、各種イベントにも参加し広報啓発活動を行いました。

## VII. 文化芸術活動を支援するとともに、歴史や文化遺産の保存と活用を進めます

日本の伝統芸能に親しむ機会を創出するため、能楽鑑賞会や小中学校に和楽器の専門家を派遣して体験学習する事業、無形民俗文化財保存団体の活動などを支援しました。また、市文化協会による子どもを対象とした夏休み絵画教室やお茶席体験講座などを、養浩館庭園で開催しました。美術館の企画展では、“ねこ”を題材とした「岩合光昭写真展」などの来場者により、総入館者数が目標値を大きく上回りました。アトリエ事業では、申込者全員につくる楽しさや喜びを体験してもらえよう、定員を上回る講座については回数を増やすなどの対応を行いました。養浩館庭園では、庭師による庭園管理とソーシャルメディアの情報発信や、「氷の茶会」、「越前焼き＋粒盆栽」など季節の折々に楽しめる事業を実施したことで、前年度と比較すると来園者数が増加しましたが、目標を達成することはできませんでした。

一乗谷朝倉氏遺跡では、唐門の屋根葺き替えや休憩所・トイレの改修など環境整備を行いました。また、遺跡内の良好な植物景観の指針や管理の目標を定めた、植生・植栽管理計画を策定しました。

## VIII. 自然科学教育の推進と中心市街地のにぎわいと交流を目的に、自然史博物館分館の整備を進めます

平成 28 年の開館をめざす自然史博物館分館の施設整備と、展示や運営体制など開設の準備を進めました。また、JAXA（独立行政法人宇宙航空研究開発機構）と連携した天文・宇宙科学に関する講座や、福井駅前の天体観望会などを開催しました。自然史博物館では、足羽山総合調査の中間成果を活用した「まちなかに残る自然 足羽山」など、博物館やボランティア活動の成果を活かした企画展を開催しました。

I. いじめや暴力行為等をなくし、子どもたちが生き生きと学校生活を送るための充実した学校教育を行います

1	<b>地域に生きる学校づくりの推進</b>	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>教育活動を地域に公開する中で、学校、地域、家庭が一体となって子どもたちの教育について考え、行動する気運をさらに高めます。</p> <p>また、各中学校生徒代表が集まり、自校の活動の発表やテーマに基づいた意見交換を行い、相互交流と、自らの学校・地域・行政に対する理解を深め誇りを育むための中学生サミットを開催します。</p>		
取 組 内 容	<p>○各小中学校において、ゲストティーチャーや教育ボランティアなど保護者や地域と連携した授業や活動の実施</p> <p>○各小中学校において、地域・学校協議会の開催</p> <p>○「教育ウィーク」（10月～11月）の市民への周知・広報及び授業公開や活動の実施</p> <p>○「福井市中学生サミット」の開催（10月14日）</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
目 標	結 果 ・ 成 果		
<p>ゲストティーチャーを招いた授業の実施</p> <p>： 全小学校（1学級当たり 延べ6人） 全中学校（1学級当たり 延べ5人）</p> <p>教育ボランティアの活用</p> <p>： 全小学校（1学級当たり 延べ31人） 全中学校（1学級当たり 延べ13人）</p> <p>地域・学校協議会の開催</p> <p>： 全小中学校（1校当たり 3回）</p> <p>教育ウィークの開催：全小中学校（1週間）</p> <p>園児・児童・生徒間の交流</p> <p>： 全小中学校（1校当たり 10回）</p> <p>中学生サミットの開催</p> <p>： 1回（全中学校 生徒代表各2名）</p>	<p>ゲストティーチャーを招いた授業の実施</p> <p>： 全小学校（1学級当たり 延べ6人） 全中学校（1学級当たり 延べ5人）</p> <p>教育ボランティアの活用</p> <p>： 全小学校（1学級当たり 延べ31人） 全中学校（1学級当たり 延べ13人）</p> <p>地域・学校協議会の開催</p> <p>： 全小中学校（1校当たり 3回）</p> <p>教育ウィークの開催：全小中学校（1週間）</p> <p>園児・児童・生徒間の交流</p> <p>： 全小中学校（1校当たり 10回）</p> <p>中学生サミットの開催</p> <p>： 1回（全中学校 生徒代表各2名）</p>		
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての小中学校で、10月～11月に「教育ウィーク」を実施しました。市政広報や各学校でポスターの掲示などを通して、市民への周知・広報を行いました。また、教育ウィーク中だけでなく、年間を通して、各幼稚園、小中学校で保護者や地域と連携した授業や活動を定期的に行いました。</li> <li>・「福井市中学生サミット」は、全中学校の生徒代表2名が参加して実施しました。「幸せ」をテーマに生徒同士が意見を交換したり、ブータンミュージアムを見学したりする活動を通して、学校のリーダーとしての意識を高めました。</li> <li>・来年度も、各中学校区で教育ボランティアなどの活用を計画的に行い、より地域との連携を深めていきます。また、地域団体の協力を得て、意義ある中学生サミットを開催していきます。</li> </ul>		

2	学力充実のための教育活動	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>一人ひとりの児童生徒に応じたきめ細かな指導を通して、基礎的・基本的な知識及び技能をしっかりと定着させるとともに、学ぶ意欲を引き出し、知識及び技能を活用して思考力・判断力・表現力を育み「確かな学力」の育成を図ります。</p> <p>また、学びの一貫性と確かな接続を目指して、保幼小連携や小中連携を中学校区ごとに目標を持って取り組みます。</p>		
	取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査研究委員会の開催 8月27日(全体会、教科部会)</li> <li>・全国学力・学習状況調査研究委員会の開催 9月10日(教科部会)</li> <li>・全国学力・学習状況調査リーフレット発行 9月末</li> <li>・学校図書館支援員の配置 22人(全小中学校)</li> <li>・保育園、幼稚園と小学校との連絡協議会の開催 8月27日、3月2日</li> <li>・小中学校合同研修会の開催 各中学校区で3回(5月、8月、2月)</li> <li>・他校への授業公開や出前授業の実践 各学校</li> <li>・全国学力・学習状況調査結果の公表 10月1日</li> </ul>	
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>全国学力・学習状況調査リーフレット発行 : 1回</p> <p>学校図書館支援員の配置 : 51校(25年度) → 全小中学校(26年度)</p> <p>他校への授業公開や出前授業の実践 : 全小中学校(1校当たり5回)</p> <p>保育園、幼稚園と小学校との連絡協議会 : 小学校ごとに2回</p> <p>小中学校合同研修会・授業研究会 : 中学校区ごとに3回</p>		<p>全国学力・学習状況調査リーフレット発行 : 1回</p> <p>学校図書館支援員の配置 : 全小中学校</p> <p>他校への授業公開や出前授業の実践 : 全小中学校(1校当たり5回)</p> <p>保育園、幼稚園と小学校との連絡協議会 : 小学校ごとに2回</p> <p>小中学校合同研修会・授業研究会 : 中学校区ごとに3回</p>	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導改善に役立てるため、各学校の教員向けに全国学力・学習状況調査リーフレットを配布しました。各学校は、児童生徒の学習状況を把握・分析し、児童生徒への教育指導の指導改善などに役立てました。また、市全体の学力・学習状況について、市のホームページで公表しました。学校と家庭や地域がそれぞれの成果と課題について、より具体的に把握し、更なる学力向上や円滑な学校運営を進めていきます。</li> <li>・学校図書館支援員の全校配置によって、これまで未配置だった学校の図書館環境の整備が進みました。</li> <li>・各中学校区で、これまでの中学校区教育を土台にして、保幼小中の円滑な接続のために、交流授業や連絡協議会、合同研修会等を実施し、互いの理解が進みました。来年度は、保幼小接続プログラムの編成と実施を進めていきます。</li> </ul>		



4	幼児教育の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>幼児一人ひとりが多様な体験を通して、調和のとれた成長ができるようにします。</p> <p>また、保幼小の円滑な接続を図り、幼稚園や保育所における教育の成果が小学校につながるよう 就学前教育を支援することで、質の高い幼児教育を提供し、園児及び保護者の満足度の向上を図って いきます。</p>		
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流保育の開催 : 9月17日、10月7日(5歳児) 10月21日(3・4歳児合同) 9月22日(3・4・5歳児合同)</li> <li>・ みんなで遊ぼう会の開催 : 7月31日、8月20日、8月26日(延べ3回)</li> <li>・ わくわく交流デーの開催 : 小学校ごとに1回(2月10日)</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
交流保育の開催	: 延べ3回	交流保育の開催	: 延べ4回
みんなで遊ぼう会の開催	: 延べ3回	みんなで遊ぼう会の開催	: 延べ3回
わくわく交流デーの開催	: 全小学校	わくわく交流デーの開催	: 全小学校ごとに1回
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うもので、直接的・具体的な体験を通して人とかかわる力を育てていきます。交流保育や、みんなで遊ぼう会を通して、友達と一緒に心を動かす体験を共有し、友達の良さに気づき、大勢のいろいろな友達と遊ぶ楽しさを味わうことができました。来年度も継続して取り組んでいきます。</li> <li>・ 小学校一日体験「わくわく交流デー」を実施することで、小学生との交流や授業体験などを通して小学校生活に期待をもち、入学を楽しみにしてもらうことができました。保護者も一緒に参加することで、お子さんの小学校入学に向けての不安を解消し、子どもと共に安心して入学を迎える場になりました。来年度は、各小学校区において作成する保幼小接続プログラムの中に位置づけて、実施していきます。</li> </ul>		

5	特別支援教育の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>市を4つのブロックに分け、福井市特別支援教育専門委員会のメンバーを核として、就学前からの特別支援教育体制の整備に努め、各校では、特別支援教育コーディネーターが中心となって個別の指導計画・教育支援計画を作成し、保育園、幼稚園、小学校、中学校間の円滑な移行支援を図ります。また、障がい児の就学や支援について、教育支援委員会を設置して就学相談及び教育相談を行い、障がい児が在園する市内の私立幼稚園に対しては補助金を交付します。</p> <p>さらに、いきいきサポーターを必要に応じて学校に配置し、発達障害等で特別な配慮が必要な児童生徒に個別の支援を行います。</p>		
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育専門委員会の開催（5月23日、7月31日、1月6日、3月3日）：計4回</li> <li>・特別支援教育コーディネーターを全小中学校に100人配置</li> <li>・小中学校の特別支援教育コーディネーター対象に連絡会の開催（4月30日）</li> <li>・市全域協議会の開催（6月19日、8月22日、1月29日）：計3回</li> <li>・平成27年度就学児相談会（7月23～25日）、既就学児童生徒相談会（8月8・11・12日）各3日間開催</li> <li>・教育支援委員会の開催（4月30日、5月23日、7月2・17・29日、9月17日、2月19日）：計7回</li> <li>・7月、8月に開催された就学相談会を受けて、継続的に就学相談を実施</li> <li>・いきいきサポーターを市内小中学校に65人配置</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>特別支援教育専門委員会の開催：4回          特別支援教育コーディネーターの指名：100人（全小中学校配置）          福井市全域を対象とした協議会の開催：3回          教育支援委員会の開催：7回          いきいきサポーターの配置：65人</p>		<p>特別支援教育専門委員会の開催：4回          特別支援教育コーディネーターの指名：100人（全小中学校配置）          福井市全域を対象とした協議会の開催：3回          教育支援委員会の開催：7回          いきいきサポーターの配置：65人</p>	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の推進に向けて、医療、福祉と教育の連携が必要となります。福井市特別支援教育専門委員会では、医療、福祉、教育の各分野から障がいのある人が継続的に支援を受けていくために、「子育てファイル ふくいっ子」の活用について話し合いがされました。併せて、市全域協議会では、特別支援教育コーディネーターを対象に「子育てファイル ふくいっ子」活用についての研修を行いました。今後も、個別の指導計画を作成・活用して児童生徒への支援を充実していきます。</li> <li>・教育支援委員会では、年2回（7月、8月）に就学相談会を実施し、その後は必要に応じて継続的に相談を行いました。</li> <li>・いきいきサポーターの支援は、児童生徒の学校生活において、安全面の配慮、情緒の安定、日常生活の支援の面で効果がみられています。</li> </ul>		

6	気がかりな児童生徒への支援の充実	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>児童生徒の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人交流の能力の素地を養うことで、問題行動の未然防止に努めます。</p>		
	<p>気がかりな児童生徒を支援するために、実効性のある指導體制、組織的な相談体制を構築します。さらに、家庭、地域、学校及び各関係機関が情報を共有し、取組の検証や協議を行い、より適切な支援体制づくりに努めます。</p>		
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市及び市内全小中学校において「いじめ防止基本方針」の策定</li> <li>・指導主事訪問における「いじめ防止基本方針」の確認および助言</li> <li>・訪問要請における学校支援</li> <li>・学校不適応対策推進会議の開催（9月26日、12月26日、2月26日）</li> <li>・いじめ問題対策連絡協議会の開催（10月21日、12月26日、3月18日）</li> <li>・生徒指導主事連絡会における事例検討会の開催（11月6日）</li> </ul>		
	<b>数 値 指 標</b>		
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>いじめ問題対策連絡協議会の開催 : 3回</p> <p>学校不適応対策推進会議の開催 : 3回</p>		<p>いじめ問題対策連絡協議会の開催 : 3回</p> <p>学校不適応対策推進会議の開催 : 3回</p>	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題対策連絡協議会では、いじめの未然防止や早期発見、早期対応のための有効ないじめ対策について協議することができました。来年度も引き続き協議会を開催し、関係する機関及び団体の連携を図りながら、いじめ対策を推進していきます。</li> <li>・学校不適応対策推進会議では、福井市適応指導教室「チャレンジ教室」の活動や学校不適応の児童生徒、保護者、関係者に対する支援のあり方について協議することができました。来年度も、引き続き推進会議を開催し、不登校児童生徒へのよりよい支援のあり方を検討していきます。</li> </ul>		

7	国際理解教育の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>小学校外国語活動の推進のために、すべての小学校の5、6年生の学級にALTが訪問します。 また、小学校3、4年生に対しては、FCAを招き、総合的な学習の時間を利用して国際理解教育を行います。</p>		
<b>取 組 内 容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校専属ALT7人が2週間に1回の割合で訪問</li> <li>・ FCA2人が2カ月に1回の割合で訪問</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
ALTの年間訪問回数 : 1学級当たり19回(25年度)→ 22回(26年度) (全小学校5、6年生対象)		ALTの年間訪問回数 : 1学級当たり22回(全小学校5、6年生対象)	
FCAの訪問 : 1学級当たり3・4回(全小学校3、4年生対象)		FCAの訪問 : 1学級当たり3・4回(全小学校3、4年生対象)	
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校外国語活動にALTが入ることにより、小学5、6年生が生英語に触れ、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、また、外国の言語や文化について理解を深められるようになりました。</li> <li>・ 小学3、4年生は、FCAの授業により、アメリカの文化について理解を深めました。また、4年生対象に「英語に慣れ親しむ活動」を行いました。</li> <li>・ 来年度は、ALTとFCAが授業に関する情報交換を密に行い、授業の質をより高めていく必要があります。</li> </ul>		

8	情報教育と教育の情報化の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>これからの時代を生きる子どもたちのために、タブレットPC等のデジタル機器を活用した授業を行います。</p> <p>また、ICT環境を有効に活用した学力・情報活用能力の向上、教育事務の効率化を図り、子ども一人ひとりにとって、より効果的な学習を行います。</p>		
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT機器を活用した授業を全小中学校で実施</li> <li>・ 教職員課題別研修において、ICTの研修を開催（8月21・22日）</li> <li>・ 緊急メールシステムのスマートフォン対応完了（8月25日）</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
ICT機器を活用した授業の実施	全小中学校	ICT機器を活用した授業の実施	全小中学校
教職員向けICTの研修	1回	教職員向けICTの研修	1回
成 果 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレゼンテーションソフトを利用した課題の提示や復習、書画カメラやタブレットを活用したイメージの共有など、ICT機器を活用した授業を全小中学校で実施しました。</li> <li>・ 教職員課題別研修において、ICTの研修を開催（8月21・22日）しました。全ての学校から1名以上の出席があり研修を行いました。全ての教員への周知を図るため、来年度も同様の研修を実施します。</li> <li>・ 緊急メールシステムのスマートフォン対応を完了しました。（8月25日）</li> <li>また、時間外の緊急時にも対応できるように、学校外からの緊急メールの送信ができるようにしました。</li> </ul>		

9	教職員の資質向上の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>学校教育の諸問題に即応した教育理論と実践についての研修や、豊かな人間性やコミュニケーション力など総合的な人間力の向上を図る研修を教職員課題別研修として実施することにより、教職員の資質向上を目指します。また、教職大学院拠点校での研究発表会への参加を通して、研究の成果を市内各小中学校に普及します。</p>		
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福井大学教職大学院拠点校において、研究発表会を開催（3月）</li> <li>・ 教職員課題別研修 校務別研修（校長・教頭・教務主任） 目的別研修 ワークショップ型 14 講座 講義型 6 講座 計 20 講座</li> <li>・ 教職大学院拠点校での研究発表会の開催 中藤小学校（11月28日） 至民中学校（11月14日）</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>教職員課題別研修の受講率 : 100%</p> <p>福井大学教職大学院拠点校における研究発表会の開催 : 小学校 1 回 中学校 1 回</p>		<p>教職員課題別研修の受講率 : 100%</p> <p>福井大学教職大学院拠点校における研究発表会の開催 : 小学校 1 回 中学校 1 回</p>	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員課題別研修は、受講免除者（他の研修の受講対象教職員、全国大会等への生徒引率中の教職員等）を除き、すべての教職員が受講しました。日々変化する教育情勢や各教科・領域に関する専門的な知識や理論を得る貴重な機会として、有意義な研修となりました。受講後のアンケート結果からも、満足度の高い研修であったと認められます。</li> <li>・ 来年度の教職員課題別研修では、アンケート結果を生かしながら、今日的な課題に即応した講座を設定し、より実効性のある研修とします。</li> <li>・ 福井大学教職大学院拠点校では、計画的に研究発表会が開催されました。参加した研究主任が研究成果を持ち帰り、市内各小中学校に共有されました。また、拠点校以外の「連携校」の公開授業にも多くの教員が参加し、研究協議会では指導力の向上について意見が交わされました。</li> <li>・ 来年度も、研究発表会を開催し、研究主任の研修の場とすることにより、各小中学校の研究体制の整備や教員の授業力向上に取り組めます。</li> </ul>		

Ⅱ. 学校における安全対策の充実に努め、食育を推進し運動部活動の活性化を図り、心身の健全な発達に努めます

10	安全教育の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>全小中学校において、危機管理マニュアル、校区内の安全マップの毎年の見直しを実施し、実態に合わせ充実させるとともに、家庭、地域、学校が相互に協力して子どもの安全を守ります。さらに、各種訓練を実施し、災害発生時に備えます。</p> <p>また、警察等の協力を得て、防犯教室や不審者対応訓練を実施し、自ら安全に注意する力をつけられるように指導を徹底します。さらに、全小中学校において、それぞれの年齢に応じた安全教育を実施します。</p>		
取組内容	<p>○危機管理マニュアルの見直し・新たな事象（ゲリラ豪雨・竜巻）対応の追加 ： 全小中学校</p> <p>○安全マップの見直し ： 全小中学校</p> <p>○児童・生徒・教職員の防犯訓練等の実施 ： 全小中学校</p> <p>○津波被害が想定される学校での津波対応避難訓練の実施 ： 4校（国見小、国見中、長橋小、越廼中）</p> <p>○安全教育の実施 ： 全小中学校</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
目 標	結 果 ・ 成 果		
危機管理マニュアルの見直し・新たな事象（ゲリラ豪雨・竜巻）対応の追加 ： 全小中学校 安全マップの見直し ： 全小中学校 児童・生徒・教職員の防犯訓練等の実施 ： 全小中学校 津波被害が想定される学校での津波対応避難訓練の実施 ： 4校（国見小、国見中、長橋小、越廼中） 安全教育の実施 ： 全小中学校	危機管理マニュアルの見直し・新たな事象（ゲリラ豪雨・竜巻）対応の追加 ： 全小中学校 安全マップの見直し ： 全小中学校 児童・生徒・教職員の防犯訓練等の実施 ： 全小中学校 津波被害が想定される学校での津波対応避難訓練の実施 ： 4校（国見小、国見中、長橋小、越廼中） 安全教育の実施 ： 全小中学校		
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒や教職員が、災害や犯罪など、あらゆる突発的な場面において敏速かつ適確に対応できるように、各種の訓練等を実施しました。しかし、自然災害や不審者、交通災害等想定される危機事象も多く、すべてに対して訓練を実施するには時間等を要し困難なため、今後も、訓練だけでなく学習場面を活用して、日頃から防災、防犯教育を実施することを進めていきます。</li> <li>・近年、地球温暖化等の影響によりゲリラ豪雨や竜巻など新たな自然災害が発生しているため、これらの事象に備え、全小中学校の危機管理マニュアルに新たな項目として追加しましたが、今後も新たな事象なども含め状況に合わせた対応を実施していきます。</li> </ul>		

11	楽しくおいしい学校給食の実施	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>子どもたちに安全・安心で楽しくおいしい学校給食を供給していくために、地場産食材や郷土料理を取り入れ、和食を推進するとともに、献立を工夫して子どもたちの嗜好を考えた給食づくりを心がけます。</p> <p>学校においては、栄養教諭及び学校栄養職員を中心に、教職員が連携して子どもの発達段階に応じた、また、給食の献立を活かした食育指導を推進します。これにより、食生活が生産者をはじめ多くの人々の苦労や努力により支えられていることを理解でき、感謝の心を育みます。</p>		
<b>取 組 内 容</b>	<p>○食育体験学習（料理教室・稲作等）実施校への支援 : 25校</p> <p>○福井市産農産物使用品目数 : 19品目</p> <p>○地場産食材を用いた献立及び郷土料理の提供 : 学校給食週間(11月)、ふるさとの日(2月7日)など</p> <p>○「和食」献立の推進 : 年間54%</p> <p>○「食に関する指導の全体計画」に基づく食育推進の実施 : 全小中学校</p> <p>○姉妹・友好都市（海外含む）にちなんだ献立の実施 : 年2回</p> <p>○米飯給食の実施 : 週4回</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>食育体験学習（料理教室・稲作等）実施校への支援 : 25校</p> <p>福井市産農産物使用品目数 : 18品目以上(25年度)→19品目以上(26年度)</p> <p>地場産食材を用いた献立及び郷土料理の提供 : 毎月19日、学校給食週間(11月)、ふるさとの日(2月7日)など</p> <p>「和食」献立の推進 : 年間50%以上</p> <p>「食に関する指導の全体計画」に基づく食育推進の実施 : 全小中学校</p> <p>姉妹・友好都市（海外含む）にちなんだ献立の実施 : 年2回</p> <p>米飯給食の実施 : 週4回</p>		<p>食育体験学習（料理教室等）実施校への支援 : 25校</p> <p>福井市産農産物使用品目数 : 19品目</p> <p>地場産食材を用いた献立及び郷土料理の提供 : 毎月19日、学校給食週間(11月)、ふるさとの日(2月7日)など</p> <p>「和食」献立の推進 : 年間54%</p> <p>「食に関する指導の全体計画」に基づく食育推進の実施 : 全小中学校</p> <p>姉妹・友好都市（海外含む）にちなんだ献立の実施 : 年2回</p> <p>米飯給食の実施 : 週4回</p>	
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育体験学習については、目標通り25校で実施することができました。児童生徒が食に関する正しい知識や望ましい食習慣を習得することにつながったと考えます。</li> <li>市内産による米飯給食を週4回実施し、地場産食材も19品目取り入れることができ、学校給食において地産地消の推進に貢献することができました。給食に地場産食材を取り入れることにより安全安心な学校給食の実施や食育に結びつくため、今後も農林水産関係所属と連携を図りながら、地産地消の向上に努めます。</li> <li>和食献立の推進については、旬の食材を使った、だし、しょうゆ、みそをベースとした味付けの献立を取り入れることにより、給食をおいしく味わうことができ、さらに和食を伝承していくことにつながる取組になりました。今後もこの取組を継続して実施していきます。</li> </ul>		

12	中学校運動部活動の充実	達成度																	
<b>実 行 内 容</b>																			
目 標	<p>高度な指導力を持つ地域の指導者を積極的に活用するとともに、一流指導者（トップアスリート）による実技講習会を通して、中学校運動部活動の充実を図ります。</p>																		
	<p>学校においては、運動部活動における体罰の根絶、指導の内容や方法について見直し・検討を進め、指導力を高めるよう努めます。</p>																		
取組内容	<p>○外部の専門指導者派遣数：40人（18中学校）</p> <table border="0" data-bbox="239 548 1133 694"> <tr> <td>〔指導種目〕</td> <td>ハンドボール</td> <td>バスケットボール</td> <td>バドミントン</td> </tr> <tr> <td></td> <td>軟式野球</td> <td>バレーボール</td> <td>サッカー</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ソフトテニス</td> <td>ソフトボール</td> <td>陸上競技</td> </tr> <tr> <td></td> <td>柔道</td> <td>剣道</td> <td>卓球</td> </tr> </table> <p>○一流指導者（トップアスリート）による講習会の開催：2回</p> <p>【種目】 バレーボール</p> <p>〔男子〕 指導者：元全日本男子バレーボール代表メンバー 中垣内祐一氏、北島武氏 講師2名 参加校：9校 参加者：生徒60名 指導者9名</p> <p>〔女子〕 指導者：元全日本男子バレーボール代表メンバー 中垣内祐一氏、今村亜季子氏 講師2名 参加校：13校 参加者：生徒76名 指導者15名</p> <p>○運動部活動の全体計画の作成：全中学校</p> <p>○運動部活動指導の校内研修の実施：全中学校</p>			〔指導種目〕	ハンドボール	バスケットボール	バドミントン		軟式野球	バレーボール	サッカー		ソフトテニス	ソフトボール	陸上競技		柔道	剣道	卓球
	〔指導種目〕	ハンドボール	バスケットボール	バドミントン															
	軟式野球	バレーボール	サッカー																
	ソフトテニス	ソフトボール	陸上競技																
	柔道	剣道	卓球																
<b>数 値 指 標</b>																			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>																	
<p>外部の専門指導者派遣数：40人</p> <p>一流指導者（トップアスリート）による講習会の開催：2回</p> <p>運動部活動の全体計画の作成：全中学校</p> <p>運動部活動指導の校内研修の実施：全中学校</p>		<p>外部の専門指導者派遣数：40人</p> <p>一流指導者（トップアスリート）による講習会の開催：2回</p> <p>運動部活動の全体計画の作成：全中学校</p> <p>運動部活動指導の校内研修の実施：全中学校</p>																	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の専門指導者については、40人（市内18中学校）が指導に当たり、生徒の競技力の向上と運動部の活性化に貢献しました。また、外部指導者は、技術指導だけでなく指導者としての資質が必要であるため、県主催の「運動部活動指導者研修会」を受講して、指導者としての資質の向上に努めました。</li> <li>・トップアスリートによる実技講習会を2回実施し、一流指導者の直接的指導を受けたことにより、参加部員のトレーニング意識の向上とスキル習得に寄与することができました。指導の成果は、短期的に効果が現れるものではありませんが、生徒の意欲や意識の向上が維持されることにより、競技力の向上につながるため、今後も継続していくことが必要です。</li> <li>・学校内においても運動部活動の全体計画の作成や指導者の校内研修により、日常的な部活動の場における指導の内容や方法を充実させることができました。今後も運動部活動指導の充実のため、継続して実施していきます。</li> </ul>																		

13	学校保健の充実	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>多様化する健康課題を的確に把握するため、児童生徒の健康診断、就学時健康診断を実施します。また、健康なライフスタイルを確立していけるように、児童生徒が心身の健康保持増進に必要な知識、能力、生活習慣を身につけるため、学校保健委員会を開催するとともに、学校等と連携を密にしながら保健学習や保健指導などの健康教育を推進します。</p>		
取組内容	<p>○定期健康診断（長期欠席者を除く）・就学時健康診断の受診率　：　100％ ○学校保健委員会の開催　：　全小中学校</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>定期健康診断(長期欠席者を除く)・就学時健康診断の受診率　：　100％ 学校保健委員会の開催　：　全小中学校</p>		<p>定期健康診断（長期欠席者を除く）・就学時健康診断の受診率　：　100％ 学校保健委員会の開催　：　全小中学校</p>	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診率については、定期健康診断において長期欠席等で受診のできない児童生徒を除き100%、就学時健診においても100%を達成することができました。今後も、児童生徒自身や保護者が健康診断の意義を理解し、自らの健康のために積極的に定期健康診断を受診するよう促し、受診率100%に向け努めていきます。保健上必要な助言及び就学の指導を行い安心して入学が迎えらるよう、就学予定の児童全員の受診をめざします。</li> <li>・学校保健委員会は全小中学校において実施することができました。これにより、児童生徒が心身の健康保持増進に必要な知識、能力、生活習慣を身につけるなど、健康づくりを推進することができました。今後も継続して実施していきます。</li> </ul>		

### Ⅲ. 家庭や地域、関係機関・団体と連携し、青少年の健全育成を進めます

14	キャリア教育の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>児童生徒一人ひとりに、将来に向けた勤労観や職業観を身につけさせるため、保護者の働く事業所や地域の企業の協力を得て、小学生の職場見学及び中学生の職場体験を実施します。</p> <p>また、よりよいキャリア教育の在り方について研究するため、企業関係団体等との連絡協議会を開催します。</p>		
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校においては職場見学、中学校においては職場体験学習を実施</li> <li>○キャリア教育連絡協議会（商工会議所等）の開催（5月1日、7月15日、8月28日、2月4日）</li> <li>○キャリア教育連絡協議会（商工会議所等）による中学校職場体験学習受入れ支援</li> <li>○青年会議所との定期連絡会を通して、学校と企業・団体との連携</li> <li>○教職員課題別研修において、キャリア教育を内容とする研修を実施</li> <li>○商工会議所等との連絡協議会への参加</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
目 標	結 果 ・ 成 果		
小学生の職場見学の実施 : 全小学校（1校当たり1日） 中学生の職場体験の実施 : 全中学校（1校当たり2日） キャリア教育連絡協議会の開催 : 4回	小学生の職場見学の実施 : 全小学校（1校当たり1日） 中学生の職場体験の実施 : 全中学校（1校当たり2.5日） キャリア教育連絡協議会の開催 : 4回		
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、福井経済同友会、福井商工会議所青年部、福井青年会議所の3団体と連携し、受入企業の仕事内容や受入時期などの情報を掲載した受入リスト（事業所数 51）を全中学校に配布しました。その結果、各受入企業と生徒の希望の調整が可能となり、これまで以上に生徒の選択肢に幅がで、充実した内容の職場体験学習が可能となりました。</li> <li>・来年度は、学校への受入リスト提示を早めに行い、より円滑な職場体験学習が行われるよう調整に努めます。</li> </ul>		

15	放課後児童クラブの整備	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>年々共働き家庭や核家族が増加している中、放課後留守家庭児童の健全育成の場、また、保護者が安心して仕事に専念できる環境を整える必要があります。</p> <p>子ども・子育て支援新制度により、事業の対象が小学校全学年に拡大されます。そのため、子ども・子育て支援事業計画に基づいた計画的な児童クラブの整備（小学校余裕教室や市有施設の改修等）を進めます。</p>		
	取 組 内 容	<p>○4月 小学1、2年生の入会希望者完全入会 (28 放課後児童会、29 児童クラブ)</p> <p>○福井市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定（9月議会）</p> <p>○9 地区の児童クラブ新規開設準備（地区：日新、東安居、日之出、円山、森田、中藤、湊、清明、明新）</p> <p>○2 地区の児童クラブ拡張に向けた備品購入（地区：社北、和田）</p> <p>○平成27年度からの子ども・子育て支援新制度のスタートに合わせ、事業の対象を小学校全学年に拡大するため、9月補正予算で児童クラブの施設整備費を実施</p>	
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>放課後児童会・児童クラブの小学1・2年生の入会率：100%</p> <p>新制度に向けた児童クラブの設置準備：4カ所</p>		<p>放課後児童会・児童クラブの小学1・2年生の入会率：100%</p> <p>新制度に向けた児童クラブの設置準備：11カ所（新設：9カ所＋拡充：2カ所）</p>	
成 果 ・ 課 題	<p>・子ども・子育て支援新制度に対応するため、9地区（日新・東安居・日之出・森田・円山・中藤・湊・清明・明新）の児童クラブを新設しました。また、2地区（和田・社北）の施設拡張に向け、必要な備品を購入し、児童の受入体制を整えました。引き続き、受入体制の拡張が必要な地区について整備を進めます。</p> <p>・1、2年生の希望者については全員受け入れることができました。</p> <p>・平成27年度から、小学6年生までの入会を希望する放課後留守家庭児童を全員受け入れることを目標に児童クラブの整備を進めましたが、一部の地区で入会希望者が予測を大きく上回ったため、H27年度の入会希望者（1～6年）の入会率は96.0%でした。引き続き、希望者全員の受入態勢を整えます。</p>		

16	地域における家庭教育支援の充実	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	子育て世帯が居住する地区公民館や中央公民館において、家庭教育を担う親などを主な対象に「家庭教育の支援のための学習」を実施するとともに、小学校等で「親学講座」を実施し、親意識の高揚や親として必要な知識、心構えの習得など、親力の向上を中心として家庭の教育力向上を図ります。		
取 組 内 容	<p>○公民館教育事業「家庭教育の支援のための学習」        家庭教育を担う親等を主な対象に、中央公民館及び地区公民館（一光公民館を除く）全 48 館において実施        〔内 容〕 中央公民館：子育てサポートリーダー養成        地区公民館：子育て講演会・相談会、親子料理教室・体操教室、食育教室、乳幼児健康講座、読み聞かせ など</p> <p>○親学講座開催事業        小学校における就学時健康診断等の機会を利用しながら、親意識の高揚や親として必要な知識、心構えの習得など、親力の向上を中心とした学習機会を提供        〔講 師〕 社会教育指導員、元校長、臨床心理士、スクールカウンセラー、児童館長 など</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
「家庭教育の支援のための学習」実施公民館 ： 全公民館 親学講座開催事業実施数 ： 31 回（25 年度）→ 35 回（26 年度）		「家庭教育の支援のための学習」実施公民館 ： 全公民館 親学講座開催事業実施数 ： 31 回	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館教育事業「家庭教育の支援のための学習」は、一光公民館を除く全ての公民館で実施しました。今後も、地域の保育園、幼稚園、小中学校、子育て支援委員会などと連携を図りながら、充実した学習内容を継続的に提供していきます。</li> <li>・親学講座開催事業は、主に就学前児童の親を対象としていたため、前年度と同じ 31 回の開催となり目標には到りませんでした。今後は、より一層学校関係者との連携を密にし、保護者会等の機会も活用して、実施数の増加を図ります。</li> </ul>		

17	地域の青少年健全育成の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	子どもたちが事件や事故に巻き込まれないように、青少年育成福井市民会議の支部で展開する見守り活動や、かけこみ所の点検・整備、地域の大人と子ども及びその保護者が交流する活動を支援します。これらにより、家庭や地域、関係機関・団体の連携を深め、子どもの健全育成に取り組みます。		
<b>取 組 内 容</b>	青少年育成福井市民会議の支部活動を支援 <支部活動> ○地域住民の「見守り隊」による小中学生の通学時見守り活動を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月5日（土）を統一実施日に定め、環境浄化一斉点検を実施</li> <li>・青少年教育に係る地域コミュニティ活動（大人と子どものニコニコ交流会等）を、例年、見守り隊の方への感謝の会を兼ねて年度末に実施。</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
青少年教育に係る地域コミュニティ活動の 実施 : 全支部 見守り活動の実施 : 全支部 環境浄化一斉点検の実施 : 全支部		青少年教育に係る地域コミュニティ活動の 実施 : 全支部 見守り活動の実施 : 全支部 環境浄化一斉点検の実施 : 全支部	
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境浄化一斉点検は、青少年育成福井市民会議創立 30 周年記念事業として春山支部をメイン会場に、全支部において実施され、通学路の安全点検及びかけこみ所の点検・整備を図りました。</li> <li>・平成 27 年度より、ハード面においては福井市通学路交通安全プログラムと危険箇所や改善依頼個所の情報の共有化を図るとともに、ソフト面では子どもたちの危険回避の能力の向上を目的とした講習会を企画するなど、青少年育成福井市民会議の活動を支援していきます。</li> <li>・また、家庭や地域、関係機関・団体の連携を深めながら、地域の大人と子どもが触れ合い、交流する機会を通じて、青少年を安全・安心な生活環境で守り育てることができるよう継続的に支援していきます。</li> </ul>		

18	家族ふれあいの推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>家族のふれあいの大切さを、市民への広報・啓発活動を通じて家庭に浸透させ、円滑な親子関係の構築と思いやりのある明るい家庭づくりを推進し、家庭の教育力の向上を図ります。</p> <p>また、規則正しい生活習慣をつくるため、関係機関と協力しながら、小中学生やその保護者を対象に規範意識を高めるための啓発活動や講習会を開催し、会話による家族のふれあいやコミュニケーションの大切さを呼びかけます。</p>		
取 組 内 容	<p>家族のふれあい運動の推進のための啓発活動を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「家族ふれあい」三角型卓上カレンダーを作成 4月末 全小学校4年生に配布</li> <li>○「家族ふれあい」絵手紙コンクールの実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>作品募集 : 6月～9月</li> <li>応募数 : 2,560点</li> <li>表彰式 : 10月25日</li> <li>作品展示 : 10月25日～11月14日(福井市美術館、福井中央郵便局、エルパ等にて)</li> </ul> </li> <li>○規範意識の講習会 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報モラル講習会 講師派遣: 小学校: 17校/中学校: 18校/チャレンジ教室 教員対象: 3回、保護者対象: 19回(児童生徒対象も含む) 自校開催分: 37校(2月末現在)</li> <li>2. ひまわり教室 : 小学校: 26校/中学校: 23校(2月末現在)</li> </ol> </li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>「家族ふれあい」絵手紙コンクールの応募数 : 2,900点(25年度)→ 3,000点(26年度)</p> <p>親子で話す機会を増やすための啓発 : 全小学4年生</p> <p>小中学生等の規範意識を高めるための講習会の開催 : 全小中学校</p>		<p>「家族ふれあい」絵手紙コンクールの応募数 : 2,560点</p> <p>親子で話す機会を増やすための啓発 : 全小学4年生</p> <p>小中学生等の規範意識を高めるための講習会の開催 : 全小中学校</p>	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家族ふれあい」絵手紙コンクールの応募数が目標数には到りませんでした。今後は、PTA・保護者や、公民館を通じて絵画に興味を持つ大人にも作品の応募を呼びかけていきます。併せて、少年愛護センター機関誌「しるべ」やホームページ、イベント等で入賞作品の紹介を行い、家族のふれあいの大切さを啓発します。</li> <li>・青少年のインターネット利用については、ネットでの被害やいじめなどの他、ネット依存などの新たな問題も発生しており、児童・生徒への情報モラル講習会を開催するとともに、最新の情報を教職員に提供し啓蒙していきます。また、家庭が果たす役割も大きいため、市民会議やPTA等の青少年育成団体とも連携を図り、保護者への啓発や講習会の開催を一層推進します。</li> </ul>		





21	学校生活環境の整備	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	生徒が安全に安心して学校生活を送れるよう、耐震性が著しく劣り老朽化した明道中学校校舎を整備します。また、子どもたちが質の高い空間で学び、生活できるよう、校庭整備、プール改築及びトイレ改修を行います。さらに、障害のある子どもたちや市民が安全かつ円滑に学校施設を利用できるよう、体育館のバリアフリー化を進めます。		
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 明道中学校校舎改築工事 [実施済]</li> <li>○ 校庭整備工事 [実施済] 小学校 1 校</li> <li>○ プール改築工事 [実施済] 小学校 2 校</li> <li>○ トイレ改修工事 [実施済] 小学校 3 校</li> <li>○ バリアフリー化工事 [実施済] 小・中学校 合計 16 校</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>明道中学校整備事業 校舎改築工事完了 整備事業進捗率 ： 20.4% (25 年度) → 90.0% (26 年度)</p> <p>学校生活環境整備事業 校庭整備工事 : 小学校 1 校 プール改築工事 : 小学校 2 校 トイレ改修工事 : 小学校 3 校 (洋式化率 : 65.7% (25 年度) → 67.2% (26 年度))</p> <p>学校体育館バリアフリー化事業 バリアフリー化工事 : 小・中学校 合計 16 校</p>		<p>明道中学校整備事業 校舎改築工事完了 整備事業進捗率 ： 91.4%</p> <p>学校生活環境整備事業 校庭整備工事 : 小学校 1 校 プール改築工事 : 小学校 2 校 トイレ改修工事 : 小学校 3 校 (洋式化率 : 67.2%)</p> <p>学校体育館バリアフリー化事業 バリアフリー化工事 : 小・中学校 合計 16 校</p>	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明道中学校整備事業については、校舎改築工事が完了し平成 27 年 4 月 1 日に供用を開始します。平成 27 年度は、北校舎解体及び校庭・外構整備を実施し年度内の事業完了を目指します。</li> <li>・ また、学校生活環境整備事業については、校庭整備工事、プール改築工事及びトイレ改修工事は目標どおり実施しました。</li> <li>・ 学校体育館バリアフリー化事業についても、小・中学校合わせて 16 校のバリアフリー化工事を実施しました。</li> </ul>		

## V. 市民一人ひとりの自主的な学習の活動を支援し、市民憲章運動を進めます

22	公民館施設の整備	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	地域の生涯学習やコミュニティ活動の拠点施設として十分な機能が発揮できるよう、老朽化や狭あい度等を勘案しながら、公民館の計画的な整備を進めます。		
取 組 内 容	<p>○円山公民館増築改修工事 平成 26 年 12 月 22 日に建物部増築改修工事が完了し、27 年 3 月 18 日に既存公民館解体や外構工事を含む全ての工事が完了 施設概要：鉄筋コンクリート造 2 階建、延床面積 646.50 m<sup>2</sup>（大ホール部分は改修）</p> <p>○和田公民館移転新築準備 ・旧福井警察署跡地の用地取得について、9 月 9 日に福井県と売買契約を締結 ・平成 27 年度の建設に向けて、新築工事の実施設計が完了</p> <p>○美山公民館下味見分館増築改修準備 平成 27 年度の建設に向けて、増築改修工事の実施設計が完了</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
目 標		結 果 ・ 成 果	
公民館建設数 : 1 館 円山公民館（増築改修）		公民館建設数 : 1 館 円山公民館（増築改修）	
公民館建設準備 : 2 館 和田公民館（建設用地取得、移転新築工事設計）		公民館建設準備 : 2 館 和田公民館（建設用地取得、移転新築工事設計）	
美山公民下味見分館（増築改修設計）		美山公民館下味見分館（増築改修設計）	
成 果 ・ 課 題	<p>・円山公民館については、地区の公民館建設委員会と協議を重ねながら整備を進めたことから、地区住民の意見を反映した公民館を建設することができ、生涯学習やコミュニティ活動の拠点施設として広く活用されています。</p> <p>・和田公民館と美山公民館下味見分館については、実施設計が完了しました。来年度は工事に着手し、工事期間中の安全性の確保や公民館利用者の利便性に配慮しながら、年度内完成を目指します。</p>		

23	公民館事業の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>市民の身近な生涯学習施設である公民館において、各種教育事業を企画、実施するとともに、自主グループ活動の充実に努め、多様な学習ニーズや地域課題に応えます。</p> <p>また、公民館は、地域のコーディネーターとして、人と人、人と地域を結ぶ機能の充実に努めます。</p>		
取 組 内 容	<p>○公民館教育事業 市民の多様な学習ニーズや地域課題に応えるため、中央公民館及び地区公民館で各種学級・講座を実施 〔実施数〕 531 講座 〔内 容〕 家庭教育の支援のための学習、青少年の健全育成のための学習、若者の地域参画を促すための学習、郷土学習を支援するための学習、豊かな健康・長寿社会の実現のための学習 など</p> <p>○公民館自主グループ 市民の多様な学習ニーズや地域課題に応えるため、中央公民館及び地区公民館で自主グループ活動を支援 〔実施数〕 895 グループ</p> <p>○公民館における各種団体活動支援 地区公民館を中心に自治会、PTA、体育振興会、壮年会、婦人会、社会福祉、地域づくりなど、多様な社会教育活動、住民活動を支援</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>公民館利用者数 ： 905,730 人(25年度)→ 906,000 人(26年度)</p> <p>公民館各種団体活動利用者数 ： 252,924 人(25年度)→ 253,000 人(26年度)</p> <p>公民館学級・講座及び自主グループ数 ： 1,420 グループ(25年度) →1,420 グループ(26年度)</p>		<p>公民館利用者数 ： 902,611 人</p> <p>公民館各種団体活動利用者数 ： 251,249 人</p> <p>公民館学級・講座及び自主グループ数 ： 1,426 グループ</p>	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館利用者数及び各種団体活動利用者数は、公民館職員に対する研修の充実に努め、魅力ある学習プログラムによる教育事業の推進を図った結果、各館において増加となりました。しかし、円山公民館においては大ホール改修工事のため約 8 か月間使用できず、前年度から約 13,000 人の利用者減となったため、全体的には前年度を下回り目標には到りませんでした。</li> <li>今後も、現代社会や地域の実情に即した学習内容の充実に努めるとともに、地域のコーディネーターとして各種団体活動の支援を推進します。</li> </ul>		

24	市民憲章運動の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>市民の精神的指標である不死鳥のねがい（福井市市民憲章）が制定 50 周年を迎えるにあたり、記念大会の開催や市民参加型の記念事業を行うことにより、市民憲章運動のさらなる普及を図ります。特に、50 周年事業の気運を醸成するため、市民憲章実践目標の唱和を徹底するとともに、公民館の催し等で福井市民の歌「わたしのまちときめきのまち」を歌うことにより、郷土愛を深めることにつながります。</p>		
	取 組 内 容	<p>○記念式典の開催          6月28日 福井市文化会館において市民憲章制定50周年記念式典を開催          [内 容] 記念表彰、トークショー、実践団体活動報告など          [参加人数] 約1,000人</p> <p>○記念事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民憲章ロゴマークの作成 応募総数 38名、67作品</li> <li>市民憲章ロゴマークの活用 花いっぱい運動で花壇等へのプレートの設置          公用車にロゴマークを貼付          事業所用ごみ袋の外袋にプリント など</li> <li>・花壇コンクール作品の募集 応募総数 136件</li> <li>・福井市民の歌「わたしのまち ときめきのまち」の周知          現代風にブラッシュアップし、CD2,000枚を制作          記念大会参加者への記念品、小中学校や公民館、保育園などに配布・活用</li> <li>・市民憲章フォトモザイクアートの実施          3月24日 アオッサにおいて完成披露式を開催          4月より市役所1階市民ホールに展示</li> <li>・学生と連携した市民憲章のホームページ作成</li> </ul> <p>○記念誌の編纂          市民憲章制定の経緯をはじめ50年のあゆみや記念大会についてまとめた記念誌を発行          [発行予定] 平成27年3月発行          [発行部数] 1,500部</p>	
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
記念大会の開催	: 6月	記念大会の開催	: 6月
花壇コンクール応募数	: 100件	花壇コンクール応募数	: 136件
市民憲章モザイクアート発表	: 1月	市民憲章モザイクアート発表	: 3月
成 果  課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50周年記念大会は、制定記念日に約1,000人の参加を得て開催し、記念表彰や福井市民の歌の合唱を実施しました。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・また、記念事業では、多くの市民に参加・協力を呼びかけて、市民憲章モザイクアートをはじめ様々な事業に取り組みました。特に花壇コンクールでは、学校や企業に対し参加を求めたことにより、前年度を上回る応募がありました。</li> <li>・モザイクアートについては、当初計画では1月に完成予定でしたが、多くの市民の参加を得るため期間を要したことから、タペストリーの完成が3月になりました。</li> <li>・これらの取組を通じて、市民一人ひとりが、市民憲章の意義を再確認することに努めました。</li> <li>・今後も、市民憲章運動のさらなる拡大を図っていくため、学生と連携してホームページの充実に努めるとともに、福井国体を見据え「花いっぱい運動」を推進します。</li> </ul>		

25	福井学の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>歴史や文化などの貴重な財産を活用し、個性と魅力に満ちたまちづくり・ひとづくりを進めるため、中央公民館において、市全体の事柄を学ぶ「福井学講座」を実施します。</p> <p>また、地区公民館では、郷土への愛着や親しみを醸成し、郷土への誇りにつながる「郷土学習」に取り組みます。</p>		
<b>取 組 内 容</b>	<p>○中央公民館での取組  基礎講座 7 回、特別講座 1 回、公開講座 1 回を開催  〔内 容〕 福井が生んだ偉人 大森房吉、宇野重吉の足跡、中央公園再整備をめざす取組、越前・若狭の海の魅力を探る、「かじかの里山 殿下」の立ち上げと地域活性化、福井城の城址を訪ねて、柴田勝家、「福井学」交流会 など</p> <p>○地区公民館での取組  地域の歴史や文化など誇れる地域資源について学ぶため、全ての公民館において郷土学習に関する事業を実施  公民館まつりや地区文化祭等の機会を通じて学習成果を発表  〔内 容〕 地区の歴史や郷土の偉人を学ぶ講座、地区内の歴史ウォーキング、郷土料理・伝統食材を学ぶ、米作りを学ぶ、門松づくり、子ども劇、御代参祭りの再現、歴史カルタ、底喰川観察 など</p> <p>○学習成果展示会を開催  〔内 容〕 8 公民館の 25 年度の取組をパネル展示  〔日時・場所〕 8 月 5 日～14 日 アオッサ 5 階ギャラリー  8 月 19 日～25 日 市役所 1 階市民ホール</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
中央公民館 福井学講座の開催 開催数 : 9 回(25 年度)→ 9 回(26 年度) 参加者数 : 402 人(25 年度)→ 420 人(26 年度) 地区公民館 郷土学習の開催 実施公民館 : 全公民館 参加者数 : 6,987 人(25 年度)→ 7,000 人(26 年度)	中央公民館 福井学講座の開催 開催数 : 9 回 参加者数 : 445 人 地区公民館 郷土学習の開催 実施公民館 : 全公民館 参加者数 : 9,161 人		
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土の誇る歴史や文化、自然、食などを学習する事業を、すべての公民館で実施しました。また、学んだ成果を地区の祭りや公民館文化祭等で発表しました。さらに、中央公民館では、多彩な講師を招き、関係する地区公民館や団体と連携を図りながら事業を展開しました。</li> <li>本年度は、清明公民館で地区の伝統行事である「御代参まつり」を再現するなど、各公民館の活発な取組により、大幅に参加者数が増えました。</li> <li>今後は、本市の持つ魅力や特性を学ぶだけでなく、学んだ成果を積極的に発信できる人材の育成を目指します。</li> </ul>		

26	環境学習の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	市民が地球環境や地域の環境問題について正しく理解し、環境意識の高揚を図るとともに、実践活動に結びつけることができるよう、身近な学習機会として、公民館で「環境意識の高揚のための学習」を実施します。		
取 組 内 容	<p>○中央公民館での取組 環境講座6回を開催 〔内 容〕 講演 環境講座を学ぶ意義について、自然エネルギーについて リサイクル社会について、循環型地域づくりについて 館外学習 里地・里山づくりの取組について（越前市白山地区）</p> <p>○地区公民館での取組 すべての公民館で「環境意識の高揚のための学習」を開催 〔内 容〕 グリーンカーテン作り、生ごみ堆肥作り、自然観察会、 自然エネルギー体験教室、花壇作り、ゴミ問題講座 など</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
「環境意識の高揚のための学習」実施公民館数 ： 41 館（25 年度）→ 45 館 （26 年度、中央公民館及び 44 地区公民館）		「環境意識の高揚のための学習」実施公民館数 ： 全公民館	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央公民館では、多彩な講師を招いた講座の開設や、自然と共生した里地・里山づくりに取り組む先進地を訪れるなど、魅力ある学習プログラムの実践に努めました。今後も、持続可能な社会づくりに向け専門的な面から学習する機会を提供します。</li> <li>・地区公民館では、生活の中の環境問題としてゴミ問題やエネルギー問題などを学びました。今後も、身近な課題を中心に学習機会を提供し、学んだ成果を実践活動に結びつけることにより、環境意識の高揚を図ります。</li> </ul>		

27	世代間交流事業の推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
<b>目 標</b>	<p>高齢者が長い人生経験の中で培ってきた知恵や技能、地区の伝統行事や生活文化等を次世代に継承する「はつらつ伝承塾」促進事業を実施し、高齢者が生きがいを見い出したり、地域づくりに活躍、貢献できる機会を提供するとともに、公民館祭りや地区敬老会などを通じて活動を広く周知します。また、高齢者が、その年齢や市民としてふさわしい社会的能力を高め、様々な人と交流が図られるよう、公民館において各種教育事業を実施するとともに、趣味や嗜好に応じた様々な文化活動に参加できるよう、自主グループ活動を支援します。</p>		
<b>取 組 内 容</b>	<p>○はつらつ伝承塾 7 団体、15 地区公民館において事業を実施 〔内 容〕 地区史の寸劇化、伝承料理・郷土料理づくり、わらや竹を使った細工、石釜づくり、民謡を学ぶ、銭太鼓 など</p> <p>○公民館教育事業 中央公民館及び全ての地区公民館で各種学級・講座を実施 〔内 容〕 家庭教育の支援のための学習、郷土学習を支援するための学習、豊かな健康・長寿社会の実現のための学習 社会貢献・ボランティア活動を支援するための学習 など</p> <p>○公民館自主グループ 中央公民館及び地区公民館で自主グループ活動を支援 〔内 容〕 美術、芸能、音楽、体育・スポーツ、教養・趣味、特技・生活技術 など</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>はつらつ伝承塾促進事業実施数 (公民館及び地区団体) : 22 事業 (25 年度) → 23 事業 (26 年度)</p>		<p>はつらつ伝承塾促進事業実施数 (公民館及び地区団体) : 22 事業</p>	
<b>成 果 ・ 課 題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はつらつ伝承塾の取組は、前年度と同じ 22 事業となり目標には到りませんでした。本事業は、各地区に伝わる生活文化等を次世代に継承するとともに、世代間交流の場としても意義があります。そのため、来年度は、地区公民館や団体での活動成果を発表する場を設け、地区外住民に対しても広く周知に努めます。また、地区行事等でも積極的に発表の場を設けるよう、公民館に対し働きかけていきます。</li> <li>・公民館教育事業及び公民館自主グループについては、引き続き高齢者の交流活動や文化活動に貢献できるよう、学習内容の充実に努めます。</li> </ul>		

28	読書活動推進の充実	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>図書館の豊富な情報や魅力を市民に広く伝え、時節の話題や福井の歴史的魅力を再発見してもらうため、様々な分野をテーマにした特設コーナーを設置し、教養を深めるための資料の提供・紹介を行います。</p> <p>また、子ども向けのイベントや、学校訪問・図書館訪問を充実するなど、より多くの子どもたちに親しまれる図書館づくりを行います。</p> <p>さらに、子どもの読書活動を推進するため、乳幼児と保護者が絵本を介して親子の絆を深め、子どもたちの健やかな成長を支援するため、ブックスタート事業を推進します。</p> <p>この他、レファレンス（調査相談）の充実、図書館ホームページ等からの情報発信の拡充を行いながら、図書館が提供する、おもてなしサービスのより一層の充実を図ります。</p>		
取 組 内 容	<p>○特設コーナー設置：270回 一般市民向け 168回 児童向け 102回</p> <p>○おはなし会等の開催：345回 7,691名 定例行事 243回 2,445名 その他行事 102回 5,246名</p> <p>○学校訪問・図書館訪問：221回 学校訪問 77回 図書館訪問 144回</p> <p>○ブックスタート：96回 市立図書館 12回 みどり図書館 12回 桜木図書館 12回 市保健センター 36回 清水保健センター 24回</p> <p>○子ども読書活動推進事業 講演会「子どもの成長とメディア」参加者 55名</p> <p>○乳幼児向け父母参加行事 「赤ちゃんとパパ・ママで楽しむわらべうた」（みどり図書館）参加者 46名</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>	<b>結 果 ・ 成 果</b>		
<p>特設コーナー設置回数（5館） ： 210回（25年度）→ 215回（26年度）</p> <p>おはなし会等の開催数（5館） ： 297回（25年度）→ 298回（26年度）</p> <p>学校訪問・図書館訪問 ： 129回（25年度）→ 135回（26年度）</p> <p>ブックスタート事業の実施 ： 95回（25年度）→ 95回（26年度） （3図書館及び保健センター・清水保健センター）</p>	<p>特設コーナー設置回数（5館）： 270回</p> <p>おはなし会等の開催数（5館）： 345回</p> <p>学校訪問・図書館訪問（5館）： 221回</p> <p>ブックスタート事業の実施： 96回</p>		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>各館で、時節のテーマや他の施設と連携した企画展などのテーマで特設コーナーを設置し、来館者におすすめの本の紹介を行いました。</li> <li>ブックスタート事業は、目標の事業実施回数を達成しました。 おはなし会等は年間を通して開催し、目標の事業実施回数を達成しました。</li> <li>学校訪問、図書館訪問に関しては、図書館のホームページに学校関係者へのお知らせを掲載したことにより、小・中学校、高校、幼稚園、保育園からの訪問の依頼が増加しました。</li> <li>今後も、市民一人ひとりに役立つ情報や、子どもに読書を親しんでもらえるような行事等を開催し、本に親しむ環境づくりに努めます。</li> </ul>		
課 題			

29	図書館サービスの拡充	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>時代の変化に伴う市民ニーズの多様化に伴い、利用形態の変化に対応したサービスの提供を行うため、開館時間の拡大や図書館ネットワークの整備、ICT環境の充実など、効果的・効率的な図書館運営を行うとともに、指定管理者制度の導入を含め図書館全体のあり方について検討します。</p> <p>また、老朽化した各図書館施設・設備等の改善と補修等を行い、安全・安心、快適な利用環境を提供します。</p>		
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夏休み期間中、市立・みどり図書館の開館時間を30分繰上げ（10時→9時30分） 期間：7月23日から8月29日（市立図書館：水・木曜日 みどり図書館：木・金曜日）</li> <li>○利用形態の変化に対応したサービス 個人パソコンの使用許可（市立図書館）（5月） 臨時自習室の開設（みどり図書館）期間：7/19～8/31</li> <li>○一般市民向け図書館行事 「耳で楽しむ福井昔ばなしの世界」（市立図書館）参加者 37名 野菜作り講演会「野菜ソムリエが語る夏野菜のチカラ」（桜木図書館）参加者 56名 歴史講演会「笈谷石が語る福井の歴史と文化」（みどり図書館）参加者 62名 「ざ・みどり寄席①・②」（みどり図書館）参加者 204名 「みどり図書館の被災と復旧座談会」 参加者 18名 古写真展「失われた福井の面影」（市立図書館）、「書写の時間」（市立図書館）参加者 5名、 作家講演会の開催「小説家が語るこっそり話」作家 碧野 圭（桜木図書館）参加者 108名 作家講演会の開催「これまで影響を受けた文学や美術について」作家 原田 マハ（桜木図書館） 参加者 211名 読み聞かせ講座「子どもと本をつなぐために」（桜木図書館）参加者 17名</li> <li>○ネットワーク・ICT環境の充実 国会図書館デジタル化資料閲覧サービス（市立図書館・桜木図書館）（7月）、 Wi-Fi環境の整備（市立図書館・みどり図書館）（8月）</li> <li>○各図書館施設・設備等の改善・補修 高圧ケーブル引込更新工事、外壁調査、出窓漏水修繕、自動ドア修繕、都市ガス配管設備修繕（市立図書館） 外壁調査、自家発電装置用バッテリー交換（みどり図書館）</li> <li>○図書館の活用についての検討会議開催。 会議開催回数 6回 図書館全体のあり方についての方向性を決定。</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
市民1人当たりの貸出冊数 : 4.4冊(25年度) → 4.8冊(26年度) 1日当たりの入館者数 : 2,416人(25年度) → 2,615人(26年度) 早朝開館日数 : 5日(25年度) → 18日(26年度) (7/23～8/29期間の水・木・金 9:30から開館)		市民1人当たりの貸出冊数 : 4.5冊 1日当たりの入館者数 : 2,506人 早朝開館日数 : 18日	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に引き続き、市立・みどり図書館では、夏休み期間中の開館時間を、曜日を限定して30分繰り上げました。利用者数は昨年に比べ増加しており、好評を得ましたので、今後も継続的に行います。</li> <li>・各図書館とも市民の関心のあるテーマの講演会開催など、図書館利用拡大に努め、行事等への来館者は増加しましたが、目標の入館者数を達成することはできませんでした。また、市民1人当たりの貸出冊数も25年度より増加しましたが、目標数は達成しませんでした。</li> <li>・図書館の活用推進について、プロジェクトチームを設置して検討し、各図書館の方向性や管理・運営方法を策定しました。指定管理者導入については、図書館が本市の優れた教育環境のひとつであることから、今後も直営で運営し質の高いサービスを提供していくこととしました。</li> </ul>		

VI. 生涯スポーツを推進し、市民の豊かなスポーツライフを支援します。また、平成30年の福井国体・全国障害者スポーツ大会の開催に向けた取組を進めます

30	スポーツ施設の充実	達成度	
<b>実行内容</b>			
目標	<p>市民が安全に安心してスポーツに参加できる環境を整備します。          旧中藤小学校体育館など、既存体育施設を計画的に改修するとともに、平成26、27年度の2箇年で、弓道場及び市体育館サブアリーナを建設します。          また、昨年度に引き続き、体育施設のバリアフリー化に取り組みます。</p>		
取組内容	<p>○ 体育施設の有効利用を図るため施設改修を実施、併せて指定管理者には、施設の空き時間を利用した自主事業の実施を促すなどの利用促進の取り組みを行った。さらに、平成30年の福井国体・全国障害者スポーツ大会関連施設の改修等についても取り組んだ。</p> <p>○ 既存体育施設改修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧中藤小学校体育館：屋外競技の屋内練習施設に特化した国体優先施設として活用するために改修工事を実施</li> <li>・わかばテニスコート：市民が安全で安心してスポーツに取り組めるように人工芝補修工事を実施</li> <li>・フェニックススタジアム：ボールカウント表示を国際基準に統一するための工事を実施</li> <li>・市体育館サブアリーナ等：福井国体の開催に向けた市体育館サブアリーナの増築及び弓道場の移転新築工事を実施</li> <li>・きららパークふれあいドーム：体育施設のバリアフリー化としてドームの玄関自動ドア化及び玄関スロープ改修工事を実施</li> </ul>		
<b>数値指標</b>			
<b>目 標</b>	<b>結 果 ・ 成 果</b>		
<p>市体育施設利用者数：1,081,403人(25年度)          → 1,150,000人(26年度)</p> <p>スポーツ公園など屋内外の体育施設利用延べ日数          : 7,954日(25年度) → 8,000日(26年度)</p> <p>既存体育施設改修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>: 国体競技施設整備             <ul style="list-style-type: none"> <li>旧中藤小学校体育館改修工事(11月)</li> <li>わかばテニスコート人工芝補修工事</li> <li>フェニックススタジアムボールカウント表示変更工事</li> </ul> </li> <li>: 弓道場             <ul style="list-style-type: none"> <li>市体育館サブアリーナ等建設事業(26、27年度継続事業)</li> <li>弓道場新築工事(基礎・杭工事)</li> <li>市体育館サブアリーナ新築工事(基礎・杭工事)</li> </ul> </li> <li>: 体育施設のバリアフリー化             <ul style="list-style-type: none"> <li>きららパークふれあいドーム玄関自動ドア化・スロープ改修工事</li> </ul> </li> </ul>	<p>市体育施設利用者数：1,118,621人</p> <p>スポーツ公園など屋内外の体育施設利用延べ日数          : 8,140日</p> <p>既存体育施設改修事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>: 国体競技施設整備             <ul style="list-style-type: none"> <li>旧中藤小学校体育館改修工事(11月)</li> <li>わかばテニスコート人工芝補修工事(7月)</li> <li>フェニックススタジアムボールカウント表示変更工事(2月)</li> </ul> </li> <li>: 弓道場             <ul style="list-style-type: none"> <li>市体育館サブアリーナ等建設工事(26、27年度継続事業)</li> <li>弓道場新築工事(基礎・杭工事)(未実施)</li> <li>市体育館サブアリーナ新築工事(基礎・杭工事)(3月)</li> </ul> </li> <li>: 体育施設のバリアフリー化             <ul style="list-style-type: none"> <li>きららパークふれあいドーム玄関自動ドア化(8月)、スロープ改修工事(2月)</li> </ul> </li> </ul>		
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設利用者数は、前年度と比較し、3万8千人程度の利用者の増加があったものの、目標数値には到りませんでした。主な要因としては、三秀プールの閉場や選挙に伴う市体育館等の利用制限、学校開放における体育館の耐震化工事、屋外施設で開催される各種大会の悪天候による中止などが考えられます。</li> <li>・既存スポーツ施設の改修では、弓道場新築工事が入札不調により当初予定より遅れることとなりますが、平成27年度に事業完了します。</li> <li>・今後も昨年度に引き続き、平成30年に開催される「国体・障害者スポーツ大会」に向けたスポーツ施設の整備を進めていきます。</li> </ul>		

31	スポーツ活動の機会の拡充	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>福井市スポーツ推進計画を策定し、生涯にわたりスポーツを楽しむことができるまちの実現に向けて、市民一人ひとりが楽しみながら運動・スポーツに参加できる機会の提供として、ファミリーウォークやミニマラソン大会等を開催します。</p> <p>また、4年後に開催される福井国体に向けて、市民のスポーツに対する関心を高めるために、全国規模大会の開催支援を行い、トップアスリートのプレーに身近に接するとともに、全国から集まる選手とスポーツを通して交流できる機会を設けます。</p>		
	取組内容	<p>○スポーツ活動の機会の拡充のための様々な事業については、市政広報ふくい、CATV ふくいチャンネル、学校・公民館へのチラシ配布など、あらゆる広報媒体を活用することで、多くの市民への周知を実施</p> <p>○スポーツ教室 生涯スポーツとして継続的にスポーツに親しむ場を提供するため、春、秋各2講座ずつ計4講座を開催</p> <p>○こんにちはファミリーウォーク 「親子で楽しいふれあい・いっしょにつくる心と体」をテーマに、一乗谷の新緑につつまれた戦国城下町を歩くファミリーウォークを実施</p> <p>○スポーツレクリエーション大会 子どもから高齢者までが気軽にレクリエーションスポーツに取り組める場を提供する事業として、6種目のニュースポーツなどを実施</p> <p>○市民のスポーツの関心を高め、国体・障害者スポーツ大会開催の機運の醸成するため全国大会規模の開催に対し補助金等による支援を実施</p>	
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>福井市スポーツ推進計画策定 : 8月</p> <p>春のスポーツ教室参加者数 : 250人(定員)</p> <p>秋のスポーツ教室参加者数 : 250人(定員)</p> <p>スポーツレクリエーション大会参加者数 : 612人(25年度) → 620人(26年度)</p> <p>こんにちはファミリーウォーク参加者数 : 300人(定員)</p> <p>ファミリーミニマラソン大会参加者数 : 1,055人(25年度) → 1,100人(26年度)</p> <p>全国・ブロック大会規模の大会開催支援回数 : 10回</p>		<p>福井市スポーツ推進計画策定 : 7月</p> <p>春のスポーツ教室参加者数 : 252人</p> <p>秋のスポーツ教室参加者数 : 253人</p> <p>スポーツレクリエーション大会参加者数 : 527人</p> <p>こんにちはファミリーウォーク参加者数 : 300人</p> <p>ファミリーミニマラソン大会参加者数 : 0人(雨天中止)</p> <p>全国・ブロック大会規模の大会開催支援回数 : 10回</p>	
成 果 ・ 課 題	<p>・「ファミリーミニマラソン」事業は、目標を上回る申込数を得ましたが、前日からの悪天候により参加者の安全に配慮して中止となりました。また、スポーツレクリエーション大会は会場確保の関係から、平日開催の種目やコース変更による参加人数の制限等により目標を上回ることができませんでした。</p> <p>・「こんにちはファミリーウォーク」については、会場を一乗地区に移して開催し、目標参加数を達成することができました。</p> <p>・全国・ブロック大会規模の大会支援については、各種マラソン大会やソフトボール、エスキーテニス競技等の8つの全国大会規模、2つのブロック大会規模の支援を行いました。</p> <p>・今後は、国体・障害者スポーツ大会を控え、様々な事業に多くの市民に参加していただけるように、広報の方法や事業内容についても魅力あるものとなるように努めていきます。</p>		

32	福井国体・全国障害者スポーツ大会の開催準備	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>25年度に設立した国体準備委員会の中で、専門的な面から調査・審議する専門委員会（総務企画、競技式典、宿泊衛生、輸送交通）を設置し、開催推進総合計画及び年次計画に沿いながら国体開催に必要な各種計画を策定するとともに、県及び競技団体等と連携しながら準備業務を進めます。</p> <p>また、障害の有無にかかわらず、誰もが不自由なく参加、観戦できる環境を整える必要があることから、国体関連施設等のバリアフリー化計画を策定します。</p> <p>さらに、競技会の運営などの参考とするため、先進開催都市の準備状況を調査・研究するとともに、国体開催の機運やおもてなしの心を醸成するため、市民に向けた広報活動を進めます。</p>		
取 組 内 容	<p>○諸会議等の開催      専門委員会…総務企画 6/3、競技式典 6/30、宿泊衛生 7/10、輸送交通 7/9      準備委員会…総会及び常任委員会 8/29</p> <p>○先催都市視察      和歌山リハーサル大会（7月～11月：和歌山市ほか6市町）      長崎国体（10月：長崎市ほか4市）      長崎障スポ大会（11月：長崎市ほか2市）      事業概要説明会（12月～1月：長崎市ほか3市）</p> <p>○広報啓発活動      クリアファイルの作成：8,000枚（各種イベント等で配布）      のぼり旗の作成：58本（14競技団体に配布）      ポロシャツの作製：1,882着（市職員用夏季事務服として着用）      ポケットティッシュの作成：3,000個（各種イベント等で配布）      懸垂幕の掲出（A O S S Aアトリウム）      市政広報番組「福いっぱいテレビ」（f t b）で本市開催の競技や会場等を紹介      イベント参加（市民体育大会開会式 6/14、まちフェス 9/7、スポーツフェスタ 12/20、21）</p> <p>○国体関連施設等バリアフリー化計画（案）策定（2月）</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
目 標	<b>結 果 ・ 成 果</b>		
総務企画専門委員会： 広報基本計画策定 競技式典専門委員会： 施設整備基本計画策定 宿泊衛生専門委員会： 宿泊基本計画策定、医事衛生基本計画策定 輸送交通専門委員会： 輸送交通基本計画策定、消防防災・警備業務基本計画策定 国体関連施設等バリアフリー化計画策定	広報基本計画策定： 8月 施設整備基本計画策定： 8月 競技運営基本計画策定： 8月 宿泊基本計画策定： 8月 医事衛生基本計画策定： 8月 輸送交通基本計画策定： 8月 消防防災・警備業務基本計画策定： 8月 国体関連施設等バリアフリー化計画策定： 2月		
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>国体開催準備について専門的な面から調査・検討する専門委員会（総務企画、競技式典、宿泊衛生、輸送交通）を開催し、開催推進総合計画及び年次計画に沿いながら、必要な各種計画を策定しました。また、庁内の関係課で組織した部局横断的課題対応班において、国体関連施設のバリアフリー計画（案）を作成し、新年度予算等に反映させました。</li> <li>国体の機運やおもてなしの心を醸成するため、国体啓発のぼり旗やノベルティ等を作製したり各種イベントに参加したりするなど、広報啓発活動を行いました。</li> <li>今後も、福井市開催推進総合計画及び年次計画に沿って、専門委員会での議論・検討をもとに各種の基本計画や実施要項等を策定するとともに、県及び競技団体等と連携しながら国体開催に向けて準備を進めます。</li> </ul>		

Ⅶ. 文化芸術活動を支援するとともに、歴史や文化遺産の保存と活用を進めます

33	文化芸術活動の担い手育成と伝統行事の保存継承	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	文化芸術団体の活動を支援し、文化芸術を鑑賞する機会の充実と活動を支える人材の育成を図ります。また、国・県・市指定無形民俗文化財保存団体が取り組んでいる後継者育成や、文化財保護・公開に係る活動を支援します。		
取 組 内 容	<p>○担い手育成事業</p> <p>伝統芸能に親しむ機会を創出するため能楽鑑賞会を支援（4月、11月）          小中学生の鑑賞機会の拡大や文化芸術活動への参加のきっかけづくりの推進          （Arts in Education：市内小中学校 19校（10月～12月））          文化芸術に触れる機会を創出するため天一祭を支援（11月）          平成 27 年度の演劇作品製作に向けての演劇ワークショップの開催（1月）</p> <p>○伝統行事の保存継承事業</p> <p>国指定無形民俗文化財 1 団体へ補助金を交付          （睦月神事：大森町）          福井県指定無形民俗文化財 4 団体へ助成金を交付          （花山行事：柘泉町、じじぐれ祭：味見河内町、馬鹿ばやし：手寄、したんじょう行事：鹿俣町）          福井市指定無形民俗文化財 1 団体へ助成金を交付          （オシッサマのお渡し：本堂町）</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
企画・運営・舞台芸術などの担い手育成事業数 ： 2 事業（25 年度）→ 4 事業（26 年度） 無形民俗文化財保存団体数 ： 9 団体（25 年度）→ 9 団体（26 年度） 市内所在の指定文化財数（国指定、国選択、市・県指定、登録文化財） ： 164 件（25 年度）→ 164 件（26 年度）		企画・運営・舞台芸術などの担い手育成事業数 ： 4 事業 無形民俗文化財保存団体数 ： 9 団体 市内所在の指定文化財数（国指定、国選択、市・県指定、登録文化財） ： 177 件	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の伝統芸能に親しむ機会を創出するため、能楽鑑賞会、天一祭及び小中学校に和楽器の専門家を派遣して体験学習する事業を支援しました。また、市民とアーティストが製作する舞台上演に向けた演劇ワークショップを支援しました。今後も、NPO 法人などと協働して事業の充実を図り、伝統文化の継承者など文化芸術活動を支える担い手の育成を図ります。</li> <li>地域の貴重な文化財を後世へ継承していくため、無形民俗文化財保存団体の活動に対し助成金を交付しました。今後も、保存団体と連携を図り、無形民俗文化財の保存継承に必要な支援を行っていきます。</li> <li>東郷地区の安本酒蔵主屋などが国登録文化財に指定されたことにより、市内所在の指定文化財数が 177 件となりました。</li> </ul>		

34	文化芸術活動の交流と情報発信	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>福井市文化協会が主催する市民文化祭を支援し、市民の文化活動の交流を図り、市民が文化芸術と出会い活動を始めの機会を増やします。</p> <p>また、文化芸術活動の拠点施設として文化会館の施設運営を行い、利用者の利便性の向上を図ります。さらに、文化芸術や文化財に関する情報を、ソーシャルメディアなどを活用して発信します。</p>		
取 組 内 容	<p>○文化協会企画事業 夏休み絵画教室「養浩館庭園を描く」 8月11日 20人 子どもお茶席体験講座 10月28日 31人、11月5日 25人 大人対象の絵画教室「養浩館庭園を描く」11月30日 21人</p> <p>○宇野重吉顕彰事業（宇野重吉生誕100年記念公演：10月4日、5日）への補助金交付</p> <p>○文化協会主催の市民文化祭を支援（11月3日、4日）</p> <p>○文化会館のPCB廃棄物を処理施設へ搬入及び処理（9月）</p> <p>○文化会館空調機器部品取替修繕（1月）</p> <p>○Facebook「うららのブンカ」で、文化芸術や文化財の情報を発信</p> <p>○文化財保護センター、おさごえ民家園、養浩館庭園のホームページをブラッシュアップ</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
市民文化祭参加者数 ： 6,819人(25年度) → 7,000人(26年度)		市民文化祭参加者数     ：   6,216人	
文化会館年間利用者数 ： 101,485人(25年度) → 102,000人(26年度)		文化会館年間利用者数     ：   97,227人	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民文化祭は、フェニックス・プラザでの子どもいけばな展示コーナーや体験コーナー、お茶席が好評でしたが、天候不良等の影響もあり参加者数は目標値に達しませんでした。今後は、プログラムの見直しなどにより参加者数の増加を目指します。</li> <li>・文化協会企画事業として、子ども対象の夏休み絵画教室及びお茶席体験講座、大人対象の絵画教室を養浩館庭園において開催し、文化芸術に親しむ機会の創出を図りました。</li> <li>・宇野重吉顕彰事業では、会場費などの経費に対し補助金の交付を行い、生誕100年記念公演「ワーニャおじさん」が福井の演劇人らによって上演されました。</li> <li>・文化会館では、PCB廃棄物の処理や空調機器の部品取替を行いました。年間利用者数は、会議室の利用者数は増加したものの、ホールの利用者数が減少したため目標値に達しませんでした。今後は、利用者が安心、安全に利用できるための継続した施設管理と、開催イベントのPRや情報発信の強化を指定管理者と連携して行い、年間利用者数の増加を図ります。</li> <li>・文化芸術や文化財について、Facebook「うららのブンカ」などのソーシャルメディア活用して、情報をリアルタイムで発信することに努めました。</li> </ul>		

35	文化財保護センター企画展の開催	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	発掘調査から、歴史文化への理解と郷土に対する愛着を深めてもらうため、身近な文化財に触れることができる企画展を開催します。また、大人から子どもまで楽しみながら、先人たちの技術を体験できる学習会を実施します。		
取 組 内 容	<p>○常設展示の実施(休館日：土日祝日、企画展開催中は除く)</p> <p>○企画展の開催</p> <p>「古墳誕生」 7月19日～8月31日の44日間 1,129人</p> <p>「墨書土器の世界」 10月11日～11月9日の30日間 266人</p> <p>「発掘速報展」 2月14日～3月15日の30日間 231人</p> <p>「福井城発掘物語」 2月4日～19日の16日間 513名(ふく+で開催)</p> <p>○体験学習等の開催</p> <p>古代技術教室「土器づくり」 7月19日・27日、10月11日・19日、2月15日・22日の6回 115人</p> <p>「土器焼き」 8月12日、11月4日、3月7日の3回 57人</p> <p>「古代アクセサリーづくり」 8月24日、10月26日の2回 48人</p> <p>「親子体験発掘」 7月26日 13組40人</p> <p>「体験学習」として夏休み期間にのびっ子クラブ2団体を受入れ、勾玉づくりを実施(中藤・社南 148人)</p> <p>遺跡見学会「足羽山古墳群の散策」 11月2日 7人(雨天のためスライド上映会を実施)</p> <p>古代体験コーナー「やってみね間」(勾玉づくり、火おこし体験、弓矢などを常時実施)1,308人</p> <p>○地区の歴史講義、遺跡見学会、遺物や民俗資料の出前授業など</p> <p>安居公民館(6月25日)、国見公民館(9月26日)、岡保公民館(10月26日)、中藤公民館(11月8日)、勝山市村岡小学校(1月26日)、中藤小学校(2月3日)、大東中学校(2月4日)</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>企画展入場者数</p> <p>： 1,626人(25年度) → 1,700人(26年度)</p> <p>企画展「福井市の古墳(仮称)」7～9月</p> <p>「墨書土器の世界(仮称)」10～11月</p> <p>「発掘速報展」3月</p> <p>「福井城発掘物語」3月</p> <p>体験学習「古代の技術体験」7～3月</p> <p>「遺跡見学会」10月</p> <p>「古代体験コーナー」4～3月</p> <p>年間利用者数</p> <p>： 2,062人(25年度) → 2,200人(26年度)</p>		<p>企画展入場者数 : 2,139人</p> <p>企画展「古墳誕生」 7月19日～8月31日</p> <p>「墨書土器の世界」 10月11日～11月9日</p> <p>「発掘速報展」 2月14日～3月15日</p> <p>「福井城発掘物語」 2月4日～19日</p> <p>体験学習「古代技術教室」(古代の技術体験)7～3月</p> <p>「親子体験発掘」 7月26日</p> <p>「遺跡見学会」 11月2日</p> <p>「古代体験コーナー」 4～3月</p> <p>年間利用者数 : 3,583人</p>	
成 果 ・ 課 題	<p>・市役所市民ホールでの展示やホームページ等を通して情報発信に努め、年間利用者数の目標を達成することができました。体験学習では、今年度初めて「親子体験発掘」を開催し、遺跡や郷土の歴史を実感する機会の提供に努めました。さらに地区のふるさとまつりでの出前展示や小・中学校での出前授業を行い、身近な文化財を紹介しました。今後も発掘調査や企画展などと連動した体験学習の内容充実にも努め、市民が文化財に直接触れ合う機会を提供していきます。</p> <p>・福井城跡の発掘調査成果を紹介する「福井城発掘物語」は、今年も市まちづくりセンター(ふく+)で開催しました。今後も中心市街地で展示イベント等を企画し、文化財の情報をより身近に、わかりやすく発信します。</p>		

36	一乗谷朝倉氏遺跡の整備	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>特別史跡の保存・管理と環境整備を行うとともに、上城戸周辺と山城の公有化を目指し、地権者及び関係機関との協議を進めます。</p> <p>また、唐門やトイレ等の改修工事を行い見学者の利便性の向上を図るとともに、遺跡の景観保全と今後の活用の指針となる活用計画を平成 26、27 年度で策定します。</p>		
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○上城戸周辺公有化予定地の地権者との買上げ交渉成立</li> <li>○朝倉氏館跡庭園法面修繕（4月・8月）</li> <li>○一乗山城登山道等整備（4月・5月）</li> <li>○一乗山城案内看板修繕（5月）</li> <li>○川合殿浄化槽修繕（5月）</li> <li>○休憩所トイレ修繕（7月）</li> <li>○特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡植栽計画策定委員会開催（7月・11月・3月）</li> <li>○唐門修理工事完了（11月）</li> <li>○イノシシ対策電気柵設置（3月）</li> <li>○朝倉氏遺跡便益施設改修工事完了（2月）</li> <li>○一乗山城登山道等整備（3月）</li> <li>○特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡植生・植栽管理計画策定（3月）</li> </ul>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
一乗谷朝倉氏遺跡見学者数（復原町並含む） : 227,972人(25年度)→255,000人(26年度)		一乗谷朝倉氏遺跡見学者数（復原町並含む） : 240,288人	
朝倉氏遺跡唐門修理工事完了 : 12月		朝倉氏遺跡唐門修理工事完了 : 11月	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺跡の保存・管理として、傷みがみられた唐門の屋根の葺替え、柱脚の交換、横堀屋根瓦の歪み修正を行いました。また、遺跡内にあるトイレの洋式化、休憩所の改修や、その他不具合箇所の修繕を行い、見学環境の改善を図りました。今後も、遺跡を後世に残していくことができるよう適切な管理に努めていきます。</li> <li>・公有化のうち、上城戸周辺については、平成 27 年度での公有化について地権者の同意を得ることができました。山城については、公有化を目指し協議を継続していきます。</li> <li>・イノシシ害対策として、電気柵を3月に設置しました。</li> <li>・朝倉氏遺跡の見学者数については、「戦国あさくら市」や「チャンバラ合戦」等の様々なイベントが開催され、昨年度比 5.4%増となりましたが、春先の天候不順の影響等により目標値に達しませんでした。次年度は、デスティネーションキャンペーンなどの新たな取り組みも予定されているため、これまで以上に関係団体、関係機関との連携を密にして、見学者数の増加を図ります。</li> <li>・遺跡の景観保存と今後の活用計画については、県との役割分担など調整を行い、今年度は、良好な植物景観を形成するための指針として「特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡植生・植栽管理計画」を策定しました。</li> </ul>		

37	養浩館庭園の整備と魅力向上	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>名勝養浩館庭園の保存・管理と環境整備を行うとともに、その魅力を後世に継承するため、保存管理計画を平成 26、27 年度で策定します。</p> <p>また、養浩館庭園の魅力をさらに向上させるため、茶席の提供や華道展示の他、聞香会や養浩塾の開催など伝統文化をテーマとした事業を実施します。さらに、早朝無料開園や、観光分野と連携したライトアップ事業等を実施します。</p>		
	取 組 内 容	<p>○造園技能士（嘱託職員）による日常管理を実施</p> <p>○養浩館庭園の facebook を開設し、庭園の説明等を発信</p> <p>○来園者数 80 万人記念セレモニー 6 月 3 日</p> <p>○養浩館（旧御泉水屋敷）庭園保存管理計画策定委員会の開催 12 月 1 日、1 月 27 日、2 月 24 日</p> <p>○魅力向上・観光活用事業</p> <p>「お茶席」 4 月 5 日～6 月 24 日、9 月 6 日～11 月 3 日の土日祝日 2,280 人</p> <p>「特設茶席」（旅行会社企画ツアー等） 4 月 12 日～3 月 8 日の 10 日間 312 人</p> <p>「早朝無料開園」 4 月 5 日～10 月 31 日 2,025 人</p> <p>「聞香会」 7 月 5 日 45 人</p> <p>「氷の茶会」 7 月 20 日 205 人</p> <p>「養浩館庭園・浴衣で遊歩」 7 月 21 日～8 月 31 日 44 人</p> <p>「養浩塾「箏」」 7 月 5 日～9 月 5 日の 6 日間 59 人</p> <p>「秋のライトアップ」（観光推進関係課連携事業） 9 月 12 日～11 月 30 日 1,802 人</p> <p>「養浩館庭園・松風の茶会」 11 月 7 日～24 日 189 人</p> <p>「養浩館庭園・越前焼＋苔庭」 12 月 14 日 35 人</p> <p>「茶会「初釜」」 1 月 3 日・4 日 151 人</p> <p>「新年特別開園」 1 月 3 日・4 日 208 人</p> <p>「養浩館庭園・越前焼＋粒盆栽」 1 月 17 日・3 月 15 日 79 人</p> <p>「養浩館庭園・日本酒文化」 2 月 8 日 20 人</p> <p>講演会「古庭園と数寄屋の魅力」 3 月 22 日 74 人</p>	
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>年間来場者数</p> <p>： 55,197 人(25 年度)→ 70,000 人(26 年度)</p> <p>魅力向上・観光活用事業参加者数</p> <p>： 4,770 人(25 年度)→ 6,000 人(26 年度)</p>		<p>年間来場者数 65,373 人</p> <p>魅力向上・観光活用事業参加者数 7,514 人</p>	
成 果 ・ 課 題	<p>・年間来場者数は、昨年度実績から約 18%増加しましたが、団体客の来場者数が伸びなかったことなどにより目標数値には到りませんでした。今後は、開催イベントの見直しや情報発信などの広報強化、観光分野との連携強化を図り、来場者数の増加に努めます。</p> <p>・保存管理については、養浩館庭園を後世に継承するため、保存管理計画策定委員会を開催しました。また、受付職員の制服を和装に変更するなど、庭園の雰囲気づくりに努めました。今後も、専門庭師の継続した配置を含め、良好な状態での庭園管理と魅力向上に努めます。</p> <p>・魅力向上・観光活用事業は、夏の「氷の茶会」や「越前焼＋粒盆栽」、「日本酒文化」などの新たな事業を実施し、事業参加者数は目標に達しました。今後も引き続き庭園の魅力を体感できる事業を実施していきます。</p>		

38	おさごえ民家園の整備と活用推進	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	老朽化が進んでいる茅屋根の葺き替えを平成 26、27 年度で実施し、文化財施設を適切に維持・管理するとともに、市民サポーターと協働して体験学習会や企画展を開催し、市民の利活用を推進します。		
取 組 内 容	<p>○旧城地家茅屋根改修工事着工（11 月）</p> <p>○体験学習会等の開催</p> <p>「子ども茶会」 5 月 5 日、8 月 24 日 81 人</p> <p>「おもちゃを作ろう」 5 月 25 日 6 人</p> <p>「親子ミュージアム」 6 月 8 日 33 人（会場：西武福井店）</p> <p>「七夕をしよう」 7 月 7 日・8 日 46 人</p> <p>「福井の怪談・きもだめし」 7 月 26 日 56 人</p> <p>「花火を見よう」 8 月 1 日 244 人</p> <p>「昔の夏を体験しよう」 7 月 19 日～8 月 31 日 104 人</p> <p>「民家園でお月見をしよう」 9 月 6 日 28 人</p> <p>「おじいちゃん・おばあちゃんと民家園に行こう」 9 月 13 日～15 日 31 人</p> <p>「竹とんぼを作って飛ばそう」 9 月 27 日 9 人</p> <p>「カマドでご飯」 10 月 19 日 37 人</p> <p>「そば打ち体験」 11 月 23 日 30 人</p> <p>「しめ縄作り」 12 月 20 日 23 人</p> <p>「民家園を語る」 12 月 21 日 21 人</p> <p>○企画展「民具から見るくらしと歴史」 3 月 14 日～29 日 166 人</p> <p>○学校連携による体験学習の受け入れを実施 10 月～2 月 53 校 2,459 人</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
年間入園者数 : 8,782 人(25 年度)→ 8,800 人(26 年度) 体験学習会等開催数 : 11 回		年間入園者数 : 8,972 人 体験学習会等開催数 : 15 回	
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧城地家住宅の改修工事に取り掛かり、仮設屋根の設置及び老朽化した箇所解体、一部軸組みの改修を行いました。引き続き平成 27 年度に軸組みの改修及び茅屋根の葺き替えを行い、古民家の適切な保存に努めます。</li> <li>古民家の歴史、景観を活かした体験学習会等を 15 回実施しました。また、民具を活用した企画展を初めて開催するなど、体験学習会等の企画を充実させたことにより、年間入園者数は目標値に達しました。今後は、古民家を生かした企画内容の充実や情報発信を図り、入園者数の増加を図ります。</li> </ul>		

39	美術館企画展等の開催	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>世代や性別を超えて気軽に楽しめるよう、分野・時代・地域など美術の多様性を考慮し、変化に富んだ展覧会を開催することによって、市民の心に感動や豊かさを与える鑑賞の機会を提供します。</p> <p>また、子どもや大人が美術を身近に感じ、創作の楽しさを味わうことによって、豊かな感性と心の潤いを持てるよう、様々な素材や手法を使ってアトリエ事業を実施し、ものづくりを体験する機会を提供します。</p> <p>さらに、本市の美術文化の向上を図り、市民に親しまれる美術の祭典となることを目的として「市美展ふくい」を開催し、市民の芸術活動の発表の機会を提供します。</p>		
取組内容	<p>○「岩合光昭写真展」 5月31日～7月13日 38日間開催</p> <p>○「北斎展」 7月19日～9月7日 45日間開催</p> <p>○「クレパス画名作展」 9月13日～11月3日 44日間開催</p> <p>○「奇才・ダリ版画展」 2月21日～3月29日 32日間開催</p> <p>○子どもアトリエ 9講座開催 ①4/27 ②6/21, 22 ③7/6 ④8/10 ⑤9/21 ⑥10/26 ⑦11/15, 16 ⑧12/7 ⑨3/8</p> <p>○市民アトリエ 9講座開催 ①4/20 ②6/15, 29 ③7/21 ④8/30, 31 ⑤9/15 ⑥10/5 ⑦11/9 ⑧12/13, 14 ⑨3/21, 22</p> <p>○第27回市美展ふくい 5月16日～25日 10日間開催</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>企画展入場者数 ： 35,551人(25年度)→ 40,000人(26年度)</p> <p>「岩合光昭写真展」26年5月31日～7月13日</p> <p>「北斎展」 26年7月19日～9月7日</p> <p>「クレパス画名作展」26年9月13日～11月3日</p> <p>「奇才・ダリ版画展」27年2月21日～3月29日</p> <p>アトリエ事業 子どもアトリエ : 年9講座 市民アトリエ : 年9講座</p> <p>市美展ふくい開催事業 ： 26年5月16日～5月25日</p> <p>年間総入館者数 ： 63,170人(25年度)→ 74,000人(26年度)</p>	<p>企画展入場者数 : 61,920人</p> <p>「岩合光昭写真展」 24,576人 26年5月31日～7月13日</p> <p>「北斎展」 27,621人 26年7月19日～9月7日</p> <p>「クレパス画名作展」 3,087人 26年9月13日～11月3日</p> <p>「奇才・ダリ版画展」 6,636人 27年2月21日～3月29日</p> <p>アトリエ事業 子どもアトリエ : 年9講座 市民アトリエ : 年9講座</p> <p>市美展ふくい開催事業 ： 26年5月16日～5月25日</p> <p>年間総入館者数 : 92,559人</p>		
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、企画展に当初予想を超える入場者数があったことで、総入館者数が目標値を大きく上回りました。特に“ねこ”を題材とした「岩合光昭写真展」で想定以上の来場者があったことや、他の企画展でもマスコミの宣伝効果が大きかったと考えられます。</li> <li>・アトリエ事業は、申込者が定員を上回る講座もありましたが、回数を増やすなどし、つくる楽しさや喜びを申込者全員に体験してもらうようにしました。</li> <li>・市美展ふくいは、事業として安定しているものの、もっと若年層にも多くの出品や来場を促す工夫を実行委員会で検討していきます。</li> <li>・今後も多彩なジャンルの中からバランスよく内容を設定し、多くの市民が美術館に興味を向けるよう工夫しながら総入館者数の増につなげていきます。</li> </ul>		

40	郷土歴史博物館企画展等の開催	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	文献・考古・美術史という様々な分野から地域の歴史・文化に関わりの深いテーマを厳選し、魅力ある特別展・企画展を開催します。また、夏休み特別企画として、博物館の色々な資料を使った展示やワークショップなどにより、「みんなで楽しむ博物館」を開催し、福井の歴史を楽しく学ぶ機会を提供します。		
取 組 内 容	<p>○春季特別展「合戦」(3月21日～5月6日)</p> <p>○夏休み特別企画「みんなで楽しむ博物館2014」(7月25日～8月31日)</p> <p>○秋季特別展「徳川将軍家の名宝」(10月17日～11月24日)</p> <p>○春季特別展「エヴァンゲリオンと日本刀展」(3月28日～5月10日)</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>企画展観覧者数 : 15,621人(25年度)→16,000人(26年度)</p> <p>    春季特別展「合戦」         26年3月21日～5月6日</p> <p>    夏休み特別企画「みんなで楽しむ博物館」         26年7月25日～8月31日</p> <p>    秋季特別展「徳川将軍家の名宝」         26年10月17日～11月24日</p> <p>    春季特別展「エヴァンゲリオンと日本刀」         27年3月28日～5月10日</p> <p>年間総入館者数 : 65,308人(25年度)→70,000人(26年度)</p> <p>収蔵資料数 : 39,780点(25年度)→39,790点(26年度)</p>	<p>企画展観覧者数 : 22,882人</p> <p>    春季特別展「合戦」         26年3月21日～5月6日</p> <p>    夏休み特別企画「みんなで楽しむ博物館」         26年7月25日～8月31日</p> <p>    秋季特別展「徳川将軍家の名宝」         26年10月17日～11月24日</p> <p>    春季特別展「エヴァンゲリオンと日本刀」         27年3月28日～5月10日</p> <p>年間総入館者数 : 77,953人</p> <p>収蔵資料数 : 40,161点</p>		
成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展観覧者数、年間総入館者数、収蔵資料数の全てにおいて目標値を上回り、郷土福井への誇りと関心を高めることができました。</li> <li>・この要因として、新聞社との共催や特別展のチラシを嶺北各市の老人施設や老人クラブ、児童クラブ等に重点的に配布するなど、PR活動を強化したことがあげられます。</li> <li>・今後とも、博物館の基本理念のもとで魅力ある展示を行うとともに、いっそうPR活動を強化し、隣接する養浩館庭園とともに福井の歴史・文化を情報発信していきます</li> </ul>		

Ⅷ. 自然科学教育の推進と中心市街地のにぎわいと交流を目的に、自然史博物館分館の整備を進めます

41	自然史博物館企画展の開催と分館の整備	達成度	
<b>実 行 内 容</b>			
目 標	<p>植物・動物・天体・地質など自然史に関する様々な視点から、市民に知ってもらいたいことや興味を持たれていることを中心に特別展を開催します。また、子どもたちを中心に気軽に参加できる体験行事や講座などを実施します。</p> <p>福井駅西口中央地区市街地再開発事業と連携して、分館の整備を着実に進めます。さらに、天文・宇宙科学の面白さを市民に理解してもらうため、JAXA等の専門機関と連携した事業を実施します。</p>		
取 組 内 容	<p>○「まちなかに残る自然 足羽山」 3月21日～5月18日 4,337人(26年度分入場者数)</p> <p>○「どうやって決まるの？動物の大きさーミジンコからクジラまでー」 7月19日～9月23日 5,433人</p> <p>○ミニ企画展「ボランティアの力」 12月6日～12月21日 142人</p> <p>○ミニ企画展「干支展 未」 平成27年1月6日～2月1日 288人</p> <p>○「むしむし美術館 ～神様のデザイン、人々のアート～」 平成27年3月21日～5月17日 1,857人(26年度分入場者数)</p> <p>○自然史講座 : 4,152人(54講座)</p> <p>○天文・宇宙科学に関する講座</p> <p>「JAXAコズミックカレッジ ロケットを飛ばしてみよう」 8月24日 56人</p> <p>「JAXAタウンミーティング 繊維の町 福井から宇宙へ」 9月14日 62人</p> <p>「天文学講座 意外に知らない月の話ー皆既月食を前にー」 10月4日 91人</p> <p>「JAXA教員研修」 12月26日 13人</p> <p>○自然史博物館分館指定管理者の選定(3月)</p>		
<b>数 値 指 標</b>			
<b>目 標</b>		<b>結 果 ・ 成 果</b>	
<p>企画展入場者数 : 19,982人(25年度)→ 20,000人(26年度)</p> <p>「まちなかに残る自然 足羽山」 26年3月21日～5月18日</p> <p>「動物の大きさの不思議」(仮称) 26年7月19日～9月23日</p> <p>「切手になった昆虫たち」(仮称) 27年3月21日～5月17日</p> <p>自然史講座等参加者数 : 2,651人(25年度)→ 2,700人(26年度)</p> <p>天文・宇宙科学に関する講座の開催 : 2回(25年度)→ 3回(26年度)</p> <p>年間総入場者数 : 25,639人(25年度)→ 26,000人(26年度)</p> <p>自然史博物館分館指定管理者の選定</p>	<p>企画展入場者数 : 12,057人</p> <p>「まちなかに残る自然 足羽山」 26年3月21日～5月18日</p> <p>「どうやって決まるの？動物の大きさーミジンコからクジラまでー」 26年7月19日～9月23日</p> <p>「むしむし美術館 ～神様のデザイン、人々のアート～」 27年3月21日～5月17日</p> <p>自然史講座等参加者数 : 4,152人</p> <p>天文・宇宙科学に関する講座の開催 : 4回</p> <p>年間総入場者数 : 18,681人</p> <p>自然史博物館分館指定管理者の選定</p>		
成 果 ・ 課 題	<p>・企画展では、足羽山総合調査の中間成果を活用した「まちなかに残る自然 足羽山」など、博物館の活動やボランティア活動の成果にスポットをあてました。しかしながら、テーマがわかりにくかったことや12月の積雪の影響もあり、年間総入場者数とともに目標は達成できませんでした。</p> <p>・今後、企画、広報をより工夫しながら、郷土の自然に関する様々な情報を発信していきます。</p> <p>・自然史講座は、目標を大きく上回りました。今年度初めて福井駅前で開催した天体観望会には多くの参加があり、JAXA等の専門機関と連携した天文・宇宙科学に関する講座の開催とともに、分館の開館へ向けた取組みを進めます。</p>		

## 5 外部の知見

福井市PTA連合会 佐々木敦子

安全教育の推進及び地域における家庭教育支援の充実について

◆子どもたちが生き生きと安全に過ごせる環境づくりを、学校・地域・関係団体の皆さまがお互いの良さを生かしあいながら進められていると感じます。特に、不審者対応訓練や地域での防災訓練、海辺が近い学校では津波対応訓練など、「自分の命は自分で守る」ことへの教育が充実してきており、保護者としても感謝の思いを深くしております。また、読み聞かせや学校の活動を支えていただいているボランティアの皆様からのご支援も活発に行われており、大きな力となって下さっています。

市民憲章運動の推進について

◆市民憲章運動については、50周年式典を開催するなどの記念行事が展開され、普及への新たなステップが踏み出されたと感じます。中でも市役所に飾られたモザイクアートは、目を引くシンボリック作品となっており、市民へのアピールとしても効果的に感じます。今後は、市民憲章を市民が機会を捉えて唱和し、あわせて実践行動目標も広く市民に周知されること。市民一人一人が一層実践に取り組み、福井市が追い求める理念の普及がさらに広く啓発されていくことを願います。

公民館事業の推進について

◆地域の生涯学習やコミュニティの拠点としての公民館が、計画的に新築されており、建物としても機能的になってきていると感じます。高齢化が進んできている今、住民が集まれる場としての役割もますます強くなってきています。一人暮らしの家庭も多くなりつつある現状を踏まえると、なお一層、助け合い、支え合う地域の要としての公民館の役割が求められているように感じます。今後ソフト面での工夫や住民の笑顔が集う場としての実効性の高い取り組みを進められるよう願います。

幼児教育の推進について

◆幼児教育の推進や新しい教育環境に馴染めるよう小学校・中学校への円滑な接続を図る取り組みが充実してきており、保護者の一人としても安心感を持ちます。しかし、子どもたちの生育環境には大きな差が生まれてきており、ネグレクトに近い環境の中で過ごさざるを得ない子がいるのも現実です。学校教育のみでは支えられない子も多く、公的な支えが必要とされています。保幼小中の連携はもとより福祉面での連携や対応、育つべき時に温かな支援が届くように多方面との協力体制を整え、どの子も心穏やかに生活ができる環境を切にお願いしたいと思います。

スポーツ施設の充実について

◆来る福井国体のための準備委員会が発足し、体育施設の改修などが着々と進められ、各施設が使いやすさを増し、利用する姿を多く目にするようになりました。報告書の中でも市の色々な施設で増築、改修、バリアフリー化が進められており、積極的な取り組みがされていることが窺われます。ますますスポーツライフを楽しむ市民が増え、スポーツ熱が高まることを願います。

おわりに

◆教育委員会の皆様が学校を訪問したり、様々な活動を視察され、子どもたちの健やかな成長や生涯学習の充実のために尽くしていただいている結果を拝見し、そのきめ細やかさと達成率の高さに感謝の思いを深くいたします。今後も子どもたちが夢と希望をいだき、ふるさと福井を誇れる施策を一層進められ、学力、体力そして人を思いあえる心を持ち合わせた福井っ子が育ちゆくことを切に願っております。

はじめに

本年度の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、地域の教育を支える教育委員会の役割はさらに重要性を増すこととなった。福井の教育は、学校教育・社会教育の双方において、さまざまな全国の調査や評価において高い評価を受けてきているが、そうしたこれまでの成果と蓄積を活かしつつ、変化する社会状況の中で、次世代を育てるために、新たな段階での取り組みに歩を進めていくことが求められている。若い世代が地域社会の主体的な担い手として協働して取り組んでいく力を培っていくことのできる学校教育の実現、そして現在の地域社会の担い手である大人が、自治の主体として活動を通してともに学んでいくことを支える組織の実現は、困難ではあっても、長期的に取り組んでいくべき中心的な課題である。

今回、報告書の確認・審査意見を求められた者として、「平成26年度福井市教育委員会事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」・「平成27年度版 教育要覧」、および各組織が公にした数多くの広報や報告書を踏まえ、福井市教育委員会の取り組みの概要と個別の施策について、所見を記す。

まず、基本的な目標を確認し（1.）、「教育に関する事務の管理及び執行状況」の概要と指標を確認した上で（2.）、より具体的な取り組みを示すそれぞれの施策と施設に関わる報告書についても検討する（3.）。最後に、評価のあり方をめぐる論点に触れておくこととする（4.）。

## 1. 目標設定について

福井市における教育行政施策は、「みんなが学び成長するまち」を中心テーマに据え、各分野ごとにそれぞれ固有のテーマが掲げられている。「健やかで自立心をもった感性ゆたかな子どもを育むまちをつくる」（学校教育）、「市民が自主的に生涯学習や生涯スポーツを楽しむまちをつくる」（社会教育・社会体育）、「歴史や文化を活かした個性的で魅力あるまちをつくる」（文化芸術・文化財）。

学校教育分野では平成25年度より、「学びの一貫性と確かな接続 一個の育ちを支えるために―」という方針を設定し幼小中の一貫した教育の実現をめざす取り組みが中学校区を基盤として重ねられてきている。

社会教育分野では、市民自らが主体となる「創造的な学習活動」の実現をめざし、地域・家庭・教育がそれぞれの取り組みを進めつつ協働するための4つの柱が設定されている。

## 2. 「教育に関する事務の管理及び執行状況」の概要とその評価

「教育に関する事務の管理及び執行状況」は、全体の「総括」、「組織目標ごとの達成状況」の総括と指標の達成状況から構成されている。

全41の指標の内、「期限内に指標を達成したもの」が26項目、「行動目標をおおむね達成したもの」1項目、「達成できなかったもの」14項目となっている。「期限内に指標を達成したもの」が全体の63パーセント、「達成できなかったもの」が34パーセントとなっている。

1) 学校教育関係の施策（施設整備・家庭地域との連携を含む）について

学校教育においては「子どもたち一人ひとりが「生きる力」を身につけるため、学校、家庭、地域の連携を深め」、「充実した教育」を実現していくことを目指して下記の4つの柱で21項目の取り組みが進められている。

I. いじめや暴力行為等をなくし、子どもたちが生き生きと学校生活を送るための充実した学校教育を行います

II. 学校における安全対策の充実に努め、食育を推進し運動部活動の活性化を図り、心身の健全な発達に努めます

III. 家庭や地域、関係機関・団体と連携し、青少年の健全育成を進めます

IV. 学校施設の耐震化や老朽化した施設の整備・改修など、環境整備に取り組みます

「I. いじめや暴力行為等をなくし、子どもたちが生き生きと学校生活を送るための充実した学校教育を行います」（1～9）については、次の諸点が成果として挙げられている。各学校で「教育活動を地域に公開し、家庭や地域と一体となって子どもたち教育について考え行動する気運が高まり」が見られたこと、体験活動の推進、特別支援コーディネーター、ALT、FCA（福井市国際文化交流大使）等の取り組み。9項目すべてにおいて指標が達成されている。

「II. 学校における安全対策の充実に努め、食育を推進し運動部活動の活性化を図り、心身の健全な発達に努めます」（10～13）については、災害などを想定した危機管理、通学路の安全対策・安全教育等が注目される。4項目すべてにおいて指標が達成されている。

「III. 家庭や地域、関係機関・団体と連携し、青少年の健全育成を進めます」（14～19）の項目では、体験学習・職場体験学習の推進とともに、女性の就労とも関わって重要性が増している「放課後留守家庭児童」のための「放課後児童クラブの新設・拡充」が計画を超えるペースで進められている。指標については全6項目中、3項目で指標が達成され、3項目では達成されていない。（16 地域における家庭教育支援の充実 18 家族ふれあいの推進 19 自然を生かした体験学習の実施）「15 放課後児童クラブの整備」では計画を超えて達成している。

「IV. 学校施設の耐震化や老朽化した施設の整備・改修など、環境整備に取り組みます」の項目では学校の耐震化について一部で着手時期の遅れがあったことが記されているが、その後の取り組みは順調に進んでいる。明道中学の校舎改築は、バリアフリーの視点も組

み込んで進められている。(20～21) 全2項目中、1項目で指標が達成され、1項目では達成されていない。(20 全ての学校施設の耐震化)

#### 小括

「はじめに」においても触れたように、グローバル化にともなう産業構造の急速な変化の波は地域経済にもすでに大きな影響を与えてきている。21世紀の社会に主体として生きる力を、子どもたちにどのように培っていくか。これまで中心だった、与えられた課題を、与えられた方法ですばやく解くこと、その習熟に比重がおかれた学習から、自ら問題をめぐる探究を進め、有効なアプローチを見定め、協働して問題に取り組んでいく力、現実的状况の中で生きて働く力を培う教育を進めていくことが求められている。

そうした観点からみると「地域に生きる学校づくりの推進」・「学校充実のための教育活動」・「国際理解教育の推進」・「情報教育と教育の情報化」、そして「教職員の資質向上の推進」等、一連の取り組みが企図されまた達成されてきていることが項目とその指標からも読み取ることができる。福井市の多くの学校においてそうした学習の転換への努力が、先生たちの協働の実践と研究を通して地道に進められてきていることを、学校と連携し、学校の取り組みを支える教職大学院の一員としても日常的に目の当たりにしてきている。

そうした学校における取り組みは、父母・地域、そして教育行政の厚い支援があっはじめて持続的に進められ、成果を挙げることも可能となる。学校における、そして学校間の協働の授業づくりとカリキュラムマネジメント、地域・教育行政による一貫した支援とそのマネジメントが、今後の改革のもっとも重要な軸となっていく。新しい指導要領においてアクティブ・ラーニングとチーム学校という改革の方向性が明示され、また幼稚園から大学まで、一貫してその方向での取り組みの推進が目標に掲げられ、とりわけ入試制度改革・評価も含めてそうした方向への動きを促進する施策が進められようとしている。次世代を担う新しい世代の成長のために、教師・地域・行政が協力し惜しみない努力を重ねる。福井の先人たちが積み重ねてきた協働の努力を引き継ぎ、この大きく変化する新しい時代において新しい質の協力と努力を重ねていくことが求められている。

#### 2) 生涯学習・社会教育・スポーツ関係の施策(博物館・美術館等の取り組みを含む)について

福井市においては、コミュニティ活動の拠点としての公民館が小学校区ごとに設置され、また図書館、スポーツ施設、一乗谷朝倉氏遺跡・養浩館庭園・おさごえ民家園・文化会館・美術館・郷土歴史博物館・自然史博物館等の教育文化施設が整備されている。こうした多様な取り組みの中でも、とりわけ50館の公民館の組織は、もっとも特長的な施策である下記の4つの柱から構成されている。

V. 市民一人ひとりの自主的な学習の活動を支援し、市民憲章運動を進めます(22～29)

VI. 生涯スポーツを推進し、市民の豊かなスポーツライフを支援します また、平成30年の福井国体・全国障害者スポーツ大会の開催に向けた取組を進めます

Ⅶ. 文化芸術活動を支援するとともに、歴史や文化遺産の保存と活用を進めます

Ⅷ. 自然科学教育の推進と中心市街地のにぎわいと交流を目的に、自然史博物館分館の整備を進めます

「Ⅴ. 市民一人ひとりの自主的な学習の活動を支援し、市民憲章運動を進めます」（22～29）

円山公民館の改築等「地域の生涯学習やコミュニティ活動の拠点である公民館」の整備が進められ、また福井学・環境学習・世代間交流事業の推進等において取り組みが展開されてきている。全8項目中4項目で指標が達成され、4項目では達成されていない。（23 公民館事業の推進 24 市民憲章運動の推進 27 世代間交流事業の推進 29 図書館サービスの拡充）なお、「25 福井学の推進」では、基礎講座と地域での取り組みの双方で参加者が増加するとともに、その内容について詳細な報告書が作成されるなど、取組が発展してきている。

「Ⅵ. 生涯スポーツを推進し、市民の豊かなスポーツライフを支援します また、平成30年の福井国体・全国障害者スポーツ大会の開催に向けた取組を進めます」（30～32）については旧中藤小学校体育館やわかばテニスコートの整備や、既存施設のバリアフリー化等が進められている。全3項目中1項目で指標が達成され、2項目では達成されていない。（30 スポーツ施設の充実 31 スポーツ活動の機会の拡充）

「Ⅶ. 文化芸術活動を支援するとともに、歴史や文化遺産の保存と活用を進めます」（33～40）では、美術館、養浩館庭園、一乗谷朝倉氏遺跡等の施設で新たな取り組みが進められ、とりわけ美術館では企画展で多くの来館者数を達成している。全8項目中4項目で指標が達成され、4項目では達成されていない。（34 文化芸術活動の交流と情報発信 36 一乗谷朝倉氏遺跡の整備 37 養浩館庭園の整備と魅力向上）

「Ⅷ. 自然科学教育の推進と中心市街地のにぎわいと交流を目的に、自然史博物館分館の整備を進めます」については、駅前再開発ビルの中に新設される「自然史博物館分館」の準備が進められるとともに、本館においても企画展等の取り組みが進められている。1項目中1項目で達成されていない。

#### 小括

学校教育の項で触れた改革への課題は、次世代のための課題であるとともに、むしろそれ以上に次世代を育てる、そして今まさに地域社会を担う私たちの世代の課題である。大震災によって明白となった防災への地域基盤の高度化という課題、変化する世界の中で地域社会を常に主体的に発展させていくという課題。まちをまもり、まちをつねに新しく創っていく力、そして次世代をよりゆたかに育てる力を、私たち自身が実践を通じて培って

いく、私たち大人の世代の実践を通じた不断の学び、学び合いが求められている。

公民館の利用者は年間のべ90万人を超え、全国的な平均の2倍近く、他の県庁所在地等の水準を大きく超えている。図書館の利用についても市民一人当たりの貸出冊数が4.5冊に上っている。美術館・博物館等も来館者数の増加が指標にも表れてきている。これらの数値の中には当初目標には達していないものも少なくないが、同規模の施設の水準を考慮しつつ高い水準を維持していくことが望まれる。

(注) この事とも関わり、参加者の拡大を示すこうした数値と合わせて、参加の質、取り組みの質をめぐる検証・評価も合わせ行うことが必要となるだろう。公民館の活動・学習への参加を通して、地域の活動と組織がどのように発展したのか。担い手がどのような力を培っていったのか。活動の足跡を辿る記録や報告にはそうした取り組みの「質」を表す手がかりが残され、あらわされている。次の3. ではそうした記録・報告書を取り上げていく。

福井市の50の公民館は、小学校区に、コーディネーターとして働く職員体制をもって設置され、地域での活動と学習を支えるとともに、学校とも連携した活動を展開してきている。新しい時代への協働の学びをさらに発展させていくために、多様な活動と実践をむすび支える公民館の役割の重要性はさらに高まってきている。

図書館・美術館・博物館等は、市民が福井の文化と歴史に出会う場であるとともに、福井をより広い世界と結ぶ場でもある。その重要性は、グローバル化する世界、そして北陸新幹線の開通と相まって、北陸・そして福井に関心が寄せられる状況の中で、飛躍的に高まってきていると言えるだろう。

### 3. 取組の質を表す報告書

2. では、「教育に関する事務の管理及び執行状況」の構成に即して、各目標をめぐる取り組みとその成果をめぐる指標の達成度を確認してきたが、この他に、教育委員会、及びそれぞれの機関 施設では、目標達成のための取り組みの展開とその成果について、年次報告書や広報 ニュースなどの形で独自のまとめとその公表を行っている。こうした報告書は、それぞれの取り組みの意義や実態、その成果を知る上で、またその評価の上でも、重要な手がかりとなる。

今回は、以下の要覧・報告書・年報・広報等についてその構成と内容を検討した。

福井市美術館館報 平成25年度 2015.3 55頁

福井市美術館ニュース

福井市文化財保護センター 年報 平成25年度 21頁

福井市中央公民館 公民館事業のまとめ 平成26年度 144頁

福井市中央公民館 福井市の公民館 No.1,2 2015.1, 2015.5 8頁

福井市自然博物館 博物館だより No.364 2015.3 4頁

多くの報告書は、取り組まれた事業の名称、概要、日時、場所、参加者数等の記録を網羅したものとなっている。それぞれの機関・組織の取り組みを把握する上では基本的なデータとなる。公的な組織の取り組みについての評価を通じて、その意味と課題を検証し、またより広く市民とともにそのあり方を考えていく手がかりとすることを目指すならば、数値、個々の事業の基礎データに加えて、とりわけ重要な取り組みについては次のような一連の展開に即した検討が必要となるだろう。

- ① それぞれの取り組みが、組織の任務・目的にとってどのような重要性を持つものなのか。
- ② 目的に迫るために、どのようなプラン、構成、組織が求められたのか。
- ③ 実際に取り組みがどのように組織され、展開されたのか。
- ④ どのような結果、成果が得られたのか。
- ⑤ 長期的な目的に即して、それがどのような意味をもち、どのような発展可能性を持つのか。

すべての取り組みについて、こうした検証を記録に留め、公表するには相応の条件整備が必要となるだろうが、まずはもっとも重要な、あるいは特徴的な取り組みについて、内実に踏み込んだ、事例報告が行われていくことが望まれる。

こうした観点から見たとき、上記の報告書・広報の中で、取り組みの展開に即した自己評価がなされている報告がすでいくつか具体的に展開されている。

中央公民館の『公民館事業のまとめ』では、それぞれの講座や取り組みについて、その狙い・目的、事業の内容・展開、学習者の感想等が示された上では、今後の課題が記されている。こうした取り組みの内実とその検討 評価が、報告書を通じて、より開かれた形で積み重ねられていくこと、そしてまた、組織を超えて交流 共有されていくことが望まれる。

また、福井市中央公民館、生涯学習室が進めている公民館の広報誌 『福井市の公民館』では、50の公民館の、それぞれに特色ある取り組みについて、交流・共有し、より広く伝えるための広報であるが、個々の公民館の重要な取り組みについて、その背景・狙い・展開・成果・課題が詳しく書き込まれている。

これらの事例報告を読むならば、地域の課題に協働して取り組もうとする人々の動きと、その実感、地域を愛し、文化を育もうとするみなさんの活動と思い、そしてそうした取り組みの展開を支えようとする職員のみなさんの働きも読み取ることが出来る。地域を主体的・協働的に支え発展させる担い手としての力を、実際の活動の積み重ねを通して培っていく。生涯学習・社会教育の目的に照らすならば、そうした活動の展開とそこでの担い手の営みの発展こそが重要となる。活動の事例報告は、そうした内容にかかわるもっとも重要な記録であり、評価の証拠資料と言えるだろう。

#### 4. 今後の課題としての質の評価

最後に、評価のあり方、方法について、今後の改善のために所見を記しておきたい。

前回・今回を通じて、評価資料の中心は、各目標のそれぞれの施策に関わる数値目標とその達成度の指標におかれている。指標の数値化によって、その達成度の把握が格段に容易となることもあり、複雑な組織の評価においておしなべて数値化が進められてきている。

こうした数値化は、一方で、そうした数値化になじみにくい、実践の発展プロセスやその価値をめぐる判断を要する、しかもきわめて重要な領域が、とりわけ教育・学習にかかわる領域には厚く存在している。また数値化が可能で有効な部分についても、目的や今後の発展性に照らして、どのように指標を設定し、またその評価の方法と基準をどのように選択するか、慎重な判断が求められる。

こうした限定づけや慎重な配慮なしに、数値化された評価のみが重視されるような組織状況が生み出されてくるならば、数値化されにくい重要な部分についての判断を欠いたまま、また大きな目的への継続的な努力よりも、短期的な数値の向上を優先するような対処が誘発され、長期的には組織そのものを大きく歪める大きな要因と化していくことになる。組織間の競争が激しくなる中で、そうした問題が現実にはさまざま組織で現実のものとなっている。

今後、それぞれの施策の中で、とりわけ重要な取り組みについては、数値指標の資料と合わせて、具体的な取り組みの展開を後付け、目的に照らして成果と今後の課題を明らかにする小さな自己評価の報告をまとめ、量・質の両面からその取り組みを検証する方法が取られることが望まれる。

今回社会教育分野を中心に、それぞれの機関でまとめられた報告書を読ませていただいたが、その中にはすでに、自分たちの取り組みについて、展開の記録に基づいて検証・評価し、それを公表する取り組みがすでになされている。学校教育分野でも、学校での改革の取り組みを紀要として、また学校評価報告書という形でまとめ刊行している学校が少なくない。こうした実践の展開と成果をあらわす記録が組織評価の中で活かされる方策を実現していくことが、先ほど述べた数量化中心の評価の弊害に陥ることを防ぐ意味でも、またより積極的に改革への取り組みを検証・評価・共有していくためにも、重要な手立てとなるだろう。